

使1:1 テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが去り、また教え初めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。

使1:3 イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。

使1:4 そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。“エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。

使1:5 ヨハネ水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。”

使1:6 さて、使徒たちは集まって、“主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか”と尋ねた。

使1:7 イエスは言われた。“父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。

使1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサムリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。”

使1:9 こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。

使1:10 イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、

使1:11 言った。“ガリラヤ人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。”

使1:12 使徒たちは、“オリーブ畑”と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近く、安息日にも歩くことが許される距離の所にある。

使1:13 彼らは都に入ると、泊まっていた家の上の部屋に上がった。それは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、フィリポ、トマス、バルトロマイ、マタイ、アルファイの子ヤコブ、熱心党のシモン、ヤコブの子ユダであった。

使1:14 彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。

使1:15 そのころ、ペトロは兄弟たちの中に立って言った。百二十人ほどの人々が一つになっていた。

使1:16 “兄弟たち、イエスを捕らえた者たちの手引きをしたあのユダについては、聖霊がダビデの口を通して預言しています。この聖書の言葉は、実現しなければならなかったのです。

使1:17 ユダはわたしたちの仲間の一人であり、同じ任務を割り当てられていました。

使1:18 ところで、このユダは不正を働いて得た報酬で土地を買ったのですが、その地面にまっさかさまに落ちて、体が真ん中から裂け、はらわたがみな出てしまいました。

使1:19 このことはエルサレムに住むすべての人に知れ渡り、その土地は彼らの言葉で‘アケルダマ’、つまり、‘血の土地’と呼ばれるようになりました。

使1:20 詩編にはこう書いてあります。‘その住まいは荒れ果てよ、そこに住むものはいなくなれ。’また、‘その務めは、ほかの人が引き受けるがよい。’

使1:21 そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復活の証人になるべきです。”

使1:23 そこで人々は、バルサバと呼ばれ、ユストというヨセフと、マティアの二人を立てて、

使1:24 次のように祈った。“すべての人の心をご存じである主よ、この二人のうちのどちらをお選びになったかを、お示してください。

使1:25 ユダが自分の行くべき所に行くために離れてしまった、使徒としてのこの任務を継がせるためです。”

使1:26 二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、

使2:2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。

使2:3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。

使2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、'霊'が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。

使2:5 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、

使2:6 この物音に大勢集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉で使徒たちが話しているのを聞いて、あっけにとられてしまった。

使2:7 人々は驚き怪しんで言った。"話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。

使2:8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。

使2:9 わたしたちの中には、バルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、

使2:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、

使2:11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神に偉大な業を語っているのを聞こうとは。"

使2:12 人々は皆驚き、とまどい、"いったい、これはどういうことなのか"と互いに言った。

使2:13 しかし、"あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ"と言って、あざける者もいた。

使2:14 すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。"ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。

使2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているものではありません。

使2:16 そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。

使2:17 '神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。

使2:18 わたしの僕やはしためにも、そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。

使2:19 上では、天に不思議な業を、舌では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる烟が、それだ。

使2:20 主の偉大な輝かしい日が来る前に、太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる。

使2:21 主の名を呼び求める者は皆、救われる。'

使2:22 イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っている◆

2,22-1,知っているとおおりです。

使2:23 このイエスを神は、お定めなされた計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。

使2:24 しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。

使2:25 ダビデは、イエスについてこう言っています。'わたしは、いつも目の前に主を見ていた。主がわたしの右におられるので、わたしは決して動揺しない。

使2:26 だから、わたしの心は楽しみ、舌は喜びたええる。体も希望のうちに生きるであろう。

使2:27 あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、あなたの聖なる者を朽ち果てるままにしておられない。

使2:28 あなたは、命に至る道をわたしに示し、御前にいるわたしを喜びで満たしてください。'

使2:29 兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあると、はっきり言えます。

使2:30 ダビデは預言者だったので、彼から生まれる子孫の一人をその王座に着かせると、神がはっきり誓ってくださったことを知っていました。

使2:31 そして、キリストの復活について前もって知り、'彼は陰府に捨てておかれず、その体は朽ち果てることがない'と語りました。

使2:32 神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの承認です。

使2:33 それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです。

使2:34 ダビデは天に昇りませんが、彼自身こう言っています。'主は、わたしの主にお告げになった。"わたしの右の座に着け。

使2:35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするときまで。'"

使2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエ

スを、神は主とし、またメシアとなさったのです。”

使2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、“巨大たち、わたしたちはどうしたらよいのですか”と言った。

使2:38 すると、ペトロは彼らに言った。“悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を許していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

使2:39 この約束は、あなたがたも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神だえある主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。”

使2:40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、“邪悪なこの時代から救われなさい”と勧めていた。

使2:41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

使2:42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

使2:43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。

使2:44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、

使2:45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。

使2:46 そして、毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、

使2:47 神を讃美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使3:1 ペトロとヨハネが午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。

使3:2 すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日“美しい門”という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。

使3:3 彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しをこうた。

使3:4 ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、“わたしたちを見なさい”と言った。

使3:5 その男が、何かもらえんと思つて二人を見つめていると、

使3:6 ペトロは言った。“わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。”

使3:7 そして、右手を取つて彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、

使3:8 踊り上がつて立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり踊ったりして神を讃美し、二人と一緒に境内に入つて行った。

使3:9 民衆は皆、彼が歩き回り、神を讃美しているのを見た。

使3:10 彼らは、それが神殿の“美しい門”のそばに座つて施しをこうていた者だと気づき、その身に起こったことに割れを忘れるほど驚いた。

使3:11 さて、その男がペトロとヨハネに付きまとつていると、民衆は皆非常に驚いて、“ソロモンの回廊”と呼ばれる所にいる彼らの方へ、一斉に集まつて来た。

使3:12 これを見たペトロは、民衆に言った。“イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか。

使3:13 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちは先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとしていたのに、その面前でこの方を拒みました。

使3:14 聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。

使3:15 あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことに証人です。

使3:16 あなたがたの見て知っているこの人を、イエスの名が強くなりました。それは、その名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのです。

使3:17 ところで、兄弟たち、あなたがたがあんなことをしてしまったのは、指導者たちと同様に無知のためであつたと、わたしには分かっています。

使3:18 しかし、神はすべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦しみを、このようにして実現なされたのです。

使3:19 だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。

使3:20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてください。

使3:21 このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。

使3:22 モーセは言いました。'あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え。'

使3:23 この預言者に耳を傾けない者は皆、民の中から滅ぼし絶やされる。'

使3:24 預言者は皆、サムエルはじめその後に預言した者も、今の時について告げています。

使3:25 あなたがたは預言者の子孫であり、神があなたがたの先祖と結ばれた契約の子です。'地上のすべての民族は、あなたから生まれる者によって祝福を受ける'と、神はアブラハムに言われました。

使3:26 それで、神は御自分の僕を立て、まず、あなたがたのもとに遣わしてくださいました。それは、あなたがた一人一人を悪から離れさせ、その祝福にあずからせるためでした。"

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使4:1 ペトロとヨハネが民衆に話をしていると、祭司たち、神殿守衛長、サドカイ派の人々が近づいて来た。

使4:2 二人が民衆に教え、イエスに起こった死者の中からの復活を宣べ伝えているので、彼らはいらだち、

使4:3 二人を捕えて翌日まで牢に入れた。既に日暮れだったからである。

使4:4 しかし、二人の語った言葉を聞いて信じた人は多く、男の数が五千人ほどになった。

使4:5 次の日、議員、長老、律法学者たちがエルサレムに集まった。

使4:6 大祭司アンナスとカイアファとヨハネとアレクサンドロと大祭司一族が集まった。

使4:7 そして、使徒たちを真ん中に立たせて、"お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか"と尋問した。

使4:8 そのとき、ペトロは悪霊に満たされて言った。"民の議員、また長老の方々、

使4:9 今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に対する善い行いと、その人が何によっていやされたかということについてであるならば、

使4:10 あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。

使4:11 この方こそ、'あなたがた家を建てる者に捨てられたが、隅の親石となった石'です。

使4:12 ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。"

使4:13 議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。

使4:14 しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。

使4:15 そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、

使4:16 言った。"あの者たちをどうしたらよいだろう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。

使4:17 しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。"

使4:18 そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。

使4:19 しかし、ペトロとヨハネは答えた。"神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか。考えてください。

使4:20 わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。"

使4:21 議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を讃美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。

使4:22 このしるしによっていやしていただいた人は、四十歳を過ぎていた。

使4:23 さて二人は、釈放されると仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちの言ったことを残らず話した。

使4:24 これを聞いた人たちは心をついにし、神に向かって声をあげて言った。“主よ、あなたは天と地と海と、そして、そこにあるすべてのものを造られた方です。

使4:25 あなたの僕であり、また、わたしたちの父であるダビデの口を通し、あなたは聖霊によってこうお告げになりました。’なぜ、異邦人は騒ぎ立ち、諸国の民はむなしいことを企てるのか。

使4:26 地上の王たちはこぞって立ち上がり、指導者たちは団結して、主とそのマシアに逆らう。’

使4:27 事実、この都でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民と一緒にあって、あなたが油を注がれた聖なる僕イエスに逆らいました。

使4:28 そして、実現するようにと御手と御心によってあらかじめ定められていたことを、すべて行ったのです。

使4:29 主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語るができるようにしてください。

使4:30 どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。”

使4:31 祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした。

使4:32 信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。

使4:33 使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に行為を持たれていた。

使4:34 信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、

使4:35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じておのおのに分配されたからである。

使4:36 たとえば、レビ族に人で、使徒たちからバルナバー——“慰めの子”という意味——と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、

使4:37 持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使5:1 ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、

使5:2 妻も承知のうえで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

使5:3 すると、ペトロは言った。“アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。

使5:4 売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。”

使5:5 この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。

使5:6 若者たちが立ち上がって死体を包み、運び出して葬った。

使5:7 それから三時間ほどたってアナニアの妻がこの出来事を知らずに入って来た。

使5:8 ペトロは彼女に話しかけた。“あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。”彼女は、“はい、その値段です”と言った

使5:9 ペトロは言った。“二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。”

使5:10 すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。青年たちは入って来て、彼女の死んでいるのを見ると、運び出し、夫のそばに葬った。

使5:11 教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。

使5:12 使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。一同は心をついにソロモンの回廊に集まっていたが、

使5:13 ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。

使5:14 そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった。

使5:15 人々は病気を大通りに運び出し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその陰だけでも

業人のだれかにかかるようにした。

使5:16 また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集って来たが、一人残らずいやしてもらった。

使5:17 そこで、大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は皆立ち上がり、ねたみに燃えて、

使5:18 使徒たちを捕えて公の牢に入れた。

使5:19 ところが、夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、

使5:20 “行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい”と言った。

使5:21 これを聞いた使徒たちあ、夜明けごろ境内に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間が集り、最高法廷、すなわちイスラエルの子らの長老会全体を召集し、使徒たちを引き出すために、人を牢に差し向けた。

使5:22 下役たちが行ってみると、使徒たちは牢にいなかった。彼らは戻って来て報告した。

使5:23 “牢にはしっかり限がかかっていたうえに、戸の前には番兵が立っていました。ところが、開けてみると、中にはだれもいませんでした。”

使5:24 この報告を来た神殿守衛長と祭司長たちは、どうなることかと、使徒たちのことで思い惑った。

使5:25 そのとき、人が来て、“御覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、境内にいて民衆に教えています”と告げた。

使5:26 そこで、守衛長は下役を率いて出て行き、使徒たちを引き立てて来た。しかし、民衆に石を投げつけられるのを恐れて、手荒なことはしなかった。

使5:27 彼らが使徒たちを引いて来て最高法廷の中に立たせると、大祭司が尋問した。

使5:28 “あの名によって教えてはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。”

使5:29 ペトロとほかの使徒たちは答えた。“人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。”

使5:30 わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。

使5:31 神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。

使5:32 わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証しておられます。”

使5:33 これを聞いた者たちは激しく怒り、使徒たちを殺そうと考えた。

使5:34 ところが、民衆全体から尊敬されている律法の教師で、ファリサイ派に属するガマリエルという人が、議場に立って、使徒たちをしばらく外に出すように命じ、

使5:35 それから議員たちにこう言った。“イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いは慎重にきなさい。”

使5:36 以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四百人くらいの男が彼に従ったことがあった。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。

使5:37 その御、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も亡び、つき従った者も皆、ちりじりにさせられた。

使5:38 そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、

使5:39 神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。“一同はこの意見に従い、

使5:40 使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。

使5:41 それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、

使5:42 毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使6:1 そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。

使6:2 そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。“わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。

使6:3 それで、兄弟たち、あなたがたの中から、'霊'と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。

使6:4 わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。”

使6:5 一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、バルメナ、アンティオキア主審の改宗者ニコラオを選んで、

使6:6 使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。

使6:7 こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。

使6:8 さて、ステファノは恵と力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。

使6:9 ところが、キレネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる“解放された奴隷の会堂”に属する人々、またキリキア州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。

使6:10 しかし、彼が知恵と、'霊'とによって語るの、齒が立たなかった。

使6:11 そこで、彼らは人々を唆して、“わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くの聞いた。”と言わせた。

使6:12 また、民衆、長老たち、律法学者たちを先導して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。

使6:13 そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。“この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。

使6:14 わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。'あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。'"

使6:15 最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使7:1 大祭司が、“訴えのとおりか”と尋ねた。

使7:2 そこで、ステファノは言った。“兄弟であり父である見なさん、聞いてください。わたしたちの父アブラハムがメソポタミアにいて、またハランに住んでいなかったとき、栄光の神が現れ、

使7:3 'あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け'と言われました。

使7:4 それでアブラハムはカルデア人の土地を出て、ハランに住みました。神はアブラハムを、彼の父が死んだ後、ハランから今あなたがたの住んでいる土地にお移しになりましたが、

使7:5 そこでは財産を何もお与えになりませんでした。一步の幅の土地さえも、しかし、そのとき、まだ子供のいなかったアブラハムに対して、'いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる'と約束なされたのです。

使7:6 神はこう言われました。'彼の子孫は、外国に移住し、四百年の間、奴隷にされて虐げられる。'

使7:7 更に、神は言われました。'彼らを奴隷にする国民は、わたしが裁く。その後、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する。'

使7:8 そして、神はアブラハムと割礼による契約を結ばれました。こうして、アブラハムはイサクをもうけ八日目に割礼を施し、イサクはヤコブを、ヤコブは十二人の族長をもうけて、それぞれ割礼を施したのです。

使7:9 この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、

使7:10 あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵と知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです。

使7:11 ところが、エジプトとカナン全土に飢饉が起り、大きな苦難が襲い、わたしたちの先祖は食糧を手に入れることができなくなりました。

使7:12 ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、まずわたしたちの先祖をそこへ行かせました。

使7:13 二度目のとき、ヨセフは兄弟たちに自分の身の上を明かし、ファラオもヨセフの一族のことを知りました。

使7:14 そこで、ヨセフは人を遣わして、父ヤコブと七十五人の親族一同を呼び寄せました。

使7:15 ユコブはエジプトに下って行き、やがて彼もわついたちの先祖も死んで、

使7:16 シケムに移され、かつてアブラハムがシケムでハモルの子から、幾らかの金で買っておいた墓に葬られました。

使7:17 神がアブラハムになさった約束の実現する時が近づくにつれ、民は増え、エジプト中に広がりました。

使7:18 それは、ヨセフのことを知らない別の王が、エジプトの支配者となるまでのことでした。

使7:19 この王は、わたしたちの同胞を欺き、先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておかないようにしました。

使7:20 このときに、モーセが生まれたのです。神の目に適った美しい子で、三か月の間、乳の家で育てられ、

使7:21 その後、捨てられたのをファラオの王女が拾い上げ、自分の子として育てたのです。

使7:22 そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました。

使7:23 四十歳になったとき、モーセは兄弟であるイスラエルの子らを助けようと思い立ちました。

使7:24 それで彼らの一人が虐待されているのを見て助け、相手のエジプト人を打ち殺し、ひどい目に遭っていた人のあだを討ったのです。

使7:25 モーセは、自分の手を通して神が巨大たちを救おうとしておられることを、彼らが理解してくれると思いました。しかし、理解してくれませんでした。

使7:26 次の日、モーセはイスラエル人が互いに争っているところに来合わせたので、仲直りをさせようとして言いました。'君たち、兄弟どうしではないか。なぜ、傷つけ合うのだ。'

使7:27 すると、仲間を痛めつけていた男は、モーセを突き飛ばして言いました。'だれが、お前を我々の指導者や裁判官にしたのか。'

使7:28 きょうエジプト人を殺したように、わたしを殺そうとするのか。'

使7:29 モーセはこの言葉を聞いて、逃げ出し、そして、ミディアン地方に身を寄せている間に、二人の男の子をもうけました。

使7:30 四十年たったとき、シナイ山に近い荒れ野において、柴の燃える炎の中で、天使がモーセの前に現れました。

使7:31 モーセは、この光景を見て驚きました。もっとよく見ようとして近づくと、主の声が聞こえました。

使7:32 'わたしは、あなたの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である'と。モーセは恐れおののいて、それ以上見ようとはしませんでした。

使7:33 そのとき、主はこう仰せになりました。'履物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる土地である。'

使7:34 わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。'

使7:35 人々が、'だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか'と言って拒んだこのモーセを、神は柴の中に現れた天使の手を通して、指導者また解放者としてお遣わしになったのです。

使7:36 この人がエジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業とするしを行って人々を導き出しました。

使7:37 このモーセがまた、イスラエルの子らにこう言いました。'神は、あなたがたの兄弟の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。'

使7:38 この人が荒れ野の集会において、シナイ山で彼に語りかけた天使とわたしたちの先祖との間に立って、命の言葉を受け、わたしたちに伝えてくれたのです。

使7:39 けれども、先祖たちはこの人に従おうとせず、彼を退け、エジプトをなつかしく思い、

使7:40 アロンに言いました。'わたしたちの先に立って導いてくれる神々を造ってください。エジプトの地から導き出してくれたあのモーセの身の上に、何が起こったのか分からないからです。'

使7:41 彼らが若い雄牛の像を造ったのはそのところで、この偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造ったものをまつって楽しんでいました。

使7:42 そこで神は顔を背け、彼らが天の星を拝むままにしておかれました。それは預言者の書にこう書いてあるとおりです。'イスラエルの家よ、お前たちは荒れ野にいた四十年の間、わたしにいけにえを供え物を捧げたことがあったか。'

使7:43 お前たちは拝むために造った偶像、モレクの御輿やお前たちの神ライファンの星を担ぎ回ったのだ。だから、わたしはお前たちをバビロンのかなたへ移住させる。'

使7:44 わたしたちの先祖には、荒れ野に証しの幕屋がありました。これは、見たままの形に造るようとモーセに言われた方のお命じになったとおりのものでした。

使7:45 この幕屋は、それを受け継いだ先祖たちが、ヨシュアに導かれ、目の前から神が追い払ってくださった異邦人の土地を占領するとき、運び込んだもので、ダビデの時代までそこにありました。

使7:46 ダビデは神の御心に適い、ヤコブの家のために神の住まいが欲しいと願っていましたが、

使7:47 神のために家を建てたのはソロモンでした。

使7:48 けれども、いと高き方は人の手で造ったようなものにはお住みになりません。これは、預言者も言っている

とおりです。

使7:49 '主は言われる。"天はわたしの王座、地はわたしの足台。お前たちは、わたしにどんな家を建ててくれると言うのか。わたしの憩う場所はどこにあるのか。

使7:50 これらはすべて、わたしの手が造ったものではないか。"

使7:51 かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。

使7:52 いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が。一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。

使7:53 天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。"

使7:54 人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向って歯ざりした。

使7:55 ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、

使7:56 "天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える"と言った。

使7:57 人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、

使7:58 都の外に引きずり出して石を投げ始めた。承認たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。

使7:59 人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、"主イエスよ、わたしの霊をお受けください"と言った。

使7:60 それから、ひざまずいて、"主よ、この罪を彼らに負わせないでください"と大声で叫んだ。ステファノはこう行って、眠りについた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使8:1 サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。

使8:2 しかし、信仰深い人々がステファノを葬り、彼のことを思っていたいへん悲しんだ。

使8:3 一方、サウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。

使8:4 さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた。

使8:5 フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。

使8:6 群衆は、フィリポの行くしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。

使8:7 実際、汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患者や足の不自由な人もいやしてもらった。

使8:8 町の人々はたいへん喜んだ。

使8:9 ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。

使8:10 それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、"この人こそ偉大なものといわれる神の力だ"と言って注目していた。

使8:11 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。

使8:12 しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼を受けた。

使8:13 シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。

使8:14 エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。

使8:15 二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。

使8:16 人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。

使8:17 ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

使8:18 シモンは、使徒たちが手を置くことで、'霊'が与えられるのを見、金を持って来て、

使8:19 言った。'わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。"

使8:20 すると、ペトロは言った。“この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると
思っているからだ。

使8:21 お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前野心が神の前に義しくないからだ。

使8:22 この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。

使8:23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。”

使8:24 シモンは答えた。“おっしゃったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。”

使8:25 このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証して語った後、サマリアの多くの村で福音を告げ知ら
せて、エルサレムに帰って行った。

使8:26 さて、主の天使はフィリポに、“ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け”と言った。
そこは寂しい道である。

使8:27 フィリポはすぐ出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をし
ていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、

使8:28 帰る途中であった。彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。

使8:29 すると、'霊'がフィリポに、“追いかけて、あの馬車と一緒にいけ”と言った。

使8:30 フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、“四でいることがお分かりにな
りますか”と言った。

使8:31 宦官は、“手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう”と言い、馬車に乗ってそばに座るように
フィリポに頼んだ。

使8:32 彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。“彼は、羊のように屠り場に光れて行った。毛を刈る者の前
で黙している小羊のように、口を開かない。

使8:33 卑しめられて、その裁きも行われなかった。だが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から
取り去られるからだ。”

使8:34 宦官はフィリポに言った。“どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自
分についてですか。だれかほかの人についてですか。”

使8:35 そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。

使8:36 道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。“ここに水があります。洗礼を受けるの
に、何か妨げがあるでしょうか。”

使8:38 そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。

使8:39 彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、
喜びにあふれて旅を続けた。

使8:40 フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、カイサリアまで行っ
た。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、

使9:2 ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道は従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上
げ、エルサレムに連行するためであった。

使9:3 ところが、サウロは旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

使9:4 サウロは地に倒れ、“サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか”と呼びかける声を聞いた。

使9:5 “主よ、あなたはどなたですか”と言うと、答えがあった。“わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

使9:6 起きて町に齒入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。”

使9:7 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。

使9:8 サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れ
て行った。

使9:9 サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。

使9:10 ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、“アナニア”と呼びかけると、アナニアは、
“主よ、ここにおります”と言った。

使9:11 すると、主は言われた。“立って、'直線通り'と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タル

ソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。

使9:12 アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおりメガ見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。”

使9:13 しかし、アナニアは答えた。”主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。

使9:14 ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。”

使9:15 すると、主は言われた。”行け、あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。

使9:16 わたしの名のためにどんなに来る島なくてはならないかを、わたしは彼に示そう。”

使9:17 そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。”兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。”

使9:18 すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、

使9:19 食事をして元気を取り戻した。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと一緒にいて、

使9:20 すぐあちこちの会堂で、”この人こそ神の子である”と、イエスのことを宣べ伝えた。

使9:21 これを聞いた人々は皆、非常に驚いて言った。”あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。”

使9:22 しかし、サウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証し、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうるたえさせた。

使9:23 かなりの日数がたって、ユダヤ人はサウロを殺そうとたくらんだが、

使9:24 この陰謀はサウロの知るところとなった。しかし、ユダヤ人は彼を殺そうと、昼も夜も町の門で見張っていた。

使9:25 そこで、サウロの弟子たちは、夜の間に彼を連れ出し、籠に乗せて町の城壁づたいにつり降ろした。

使9:26 サウロはエルサレムに着き、弟子の仲間に加わろうとしたが、皆は彼を弟子だとは信じないで恐れた。

使9:27 しかしバルナバは、サウロを連れて使徒たちのところへ案内し、サウロが旅の途中で主に出会い、主に語りかけられ、ダマスコでイエスの名によって大胆に宣教した次第を説明した。

使9:28 それで、サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の名によって恐れずに教えるようになった。

使9:29 また、ギリシア後を話すユダヤ人と語り、議論もしたが、彼らはサウロを殺そうとねらっていた。

使9:30 それを知った兄弟たちは、サウロを連れてカイサリアに下り、そこからタルソスへ出発させた。

使9:31 こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地方で平和を保ち、主を畏れ、聖霊の慰めを受け、基礎が固まって発展し、真の数が増えていった。

使9:32 ペトロは方々を巡り歩き、リダに住んでいる聖なる者たちのところへも下って行った。

使9:33 そしてそこで、中風で八年前から床についていたアイネアという人に会った。

使9:34 ペトロが、”アイネア、イエス・キリストがいやしてくださる。起きなさい。自分で床を整えなさい”と言うと、アイネアはすぐ起き上がった。

使9:35 リダとシャロンに住む人は皆アイネアを見て、主に立ち帰った。

使9:36 ヤッフアにダイデー一訳して言えばドルカス、すなわち”かもしか”一とと呼ばれる婦人の弟子がいた。彼女はたくさんの善い行いや施しをしていた。

使9:37 ところが、そのころ病気になって死んだので、人々は遺体を清めて階上の部屋に安置した。

使9:38 リダはヤッフアに近かったので、弟子たちはペトロがリダにいると聞いて、二人の人を送り、”急いでわたしたちのところへ来てください”と頼んだ。

使9:39 ペトロはそこをたつて、その二人と一緒に出かけた。人々はペトロが到着すると、階上の部屋に案内した。やもめたちは皆そばに寄って来て、泣きながら、ドルカスが一緒にいたときに作ってくれた数々の下着や上着を見せた。

使9:40 ペトロが皆を外に出し、ひざまずいて祈り、遺体に向かって、”ダビタ、起きなさい”と言うと、彼女は目を開き、ペトロを見て起き上がった。

使9:41 ペトロは彼女に手を貸して立たせた。そして、聖なる者たちとやもめたちを呼び、行き返ったダビタを見せた。

使9:42 このことはヤッフア中に知れ亘、多くの人が主を信じた。

使9:43 ペトロはしばらくの間、ヤッファで革なめし職人のシモンという人の家に滞在した。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使10:1 さて、カイサリアにコルネリウスという人がいた。“イタリア隊”と呼ばれる部隊の百人隊長で、

使10:2 信仰心あつく、一家そろって神を畏れ、民に多くの施しをし、絶えず神に祈っていた。

使10:3 ある日の午後三時ごろ、コルネリウスは、神の天使が入って来て“コルネリウス”と呼びかけるのを、幻ではっきりと見た。

使10:4 彼は天使を見つめていたが、怖くなって、“主よ、何でしょうか”と言った。すると、天使は言った。“あなたの祈りと施しは、神の前に届き、覚えられた。

使10:5 今、ヤッファへ人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。

使10:6 その人は、革なめし職人シモンという人の客になっている。シモンの家は海岸にある。”

使10:7 天使がこう話して立ち去ると、コルネリウスは二人の召し使いと、側近の部下で信仰心のあつい一人の兵士とを呼び、

使10:8 すべてのことを話してヤッファに送った。

使10:9 翌日、この3人が旅をしてヤッファの町に近づいたころ、ペトロは祈るため屋上に上がった。昼の十二時ごろである。

使10:10 彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。人々が食事の準備をしているうちに、ペトロは割れを忘れたようになり、

使10:11 天が開き、大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、地上に下りて来るのを見た。

使10:12 その中には、あらゆる獣、地を這うもの、空の鳥が入っていた。

使10:13 そして、“ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい”と言う声があった。

使10:14 しかし、ペトロは言った。“主よ、とんでもないことです。清くない者、汚れた物は一つ食べたことはありません。”

使10:15 すると、また声が聞こえてきた。“神が清めた物を、聖くないなどと、あなたは言うてはならない。”

使10:16 こういうことが三度あり、その入れ物は急に天に引き上げられた。

使10:17 ペトロが、今見た幻はいったい何であろうかと、ひとりで思案に暮れていると、コルネリウスから差し向けられた人々が、シモンの家を捜し当てて門口に立ち、

使10:18 声をかけて、“ペトロと呼ばれるシモンという方が、ここに泊まっておられますか”と尋ねた。

使10:19 ペトロがなおも幻について考え込んでいると、‘霊’がこう言った。“三人の物があなたを探しに来ている。

使10:20 立って下に行き、ためらわないで一緒に出発しなさい。わたしがあの物たちをよこしたのだ。”

使10:21 ペトロは、その人々のところへ降りて行って、“あなたがたが探しているのは、このわたしです。どうして、ここへ来られたのですか”と言った。

使10:22 すると、彼らは言った。“百人隊長のコルネリウスは、正しい人出神を畏れ、すべてのユダヤ人に評判の良い人ですが、あなたを家に招いて話を聞くようにと、聖なる天使からお告げを受けたのです。”

使10:23 それで、ペトロはその人たちを迎え入れ、泊ませた。翌日、ペトロはそこをたち、彼らと出かけた。ヤッファの兄弟も何人か一緒に行った。

使10:24 次の日、一行はカイサリアに到着したコルネリウスは親類や親しい友人を呼び集めて待っていた。

使10:25 ペトロが来ると、コルネリウスは迎えにや出て、足もとにひれ伏して拝んだ。

使10:26 ペトロは彼を起こして言った。“お立ちください。わたしただの人間です。”

使10:27 そして、話ながら家に入ってみると、大勢の人が集っていたので、

使10:28 彼らに言った。“あなたがたもご存じのとおり、ユダヤ人が外国人と交際したり、外国人を訪問したりすることは、律法で禁じられています。けれども、神はわたしに、どんな人をも清くない者とか、汚れている者とか行つてはならないと、お示しになりました。

使10:29 それで、お招きを受けたとき、すぐ来たのです。お尋ねしますが、なぜ招いてくださったのですか。”

使10:30 すると、コルネリウスが言った。“四日前の今ごろのことです。わたしが家で午後三時の祈りをしていると、輝く服を着た人がわたしの前に立って、

使10:31 言うのです。‘コルネリウス、あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前で覚えられた。

使10:32 ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、海岸にある革なめし職人シモン

の家に泊まっている。’

使10:33 それで、早速あなたのところに人を送ったのです。よくおいでくださいました。今わたしたちは皆、主があなたにお命じになったことを残らず気候として、神の前にいるのです。”

使10:34 そこで、ペトロは口を開きこう言った。“神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。

使10:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。

使10:36 神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、

使10:37 あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。

使10:38 つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。

使10:39 わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなさったことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、

使10:40 神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。

使10:41 しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。

使10:42 そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。

使10:43 また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証しています。”

使10:44 ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。

使10:45 割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた。

使10:46 異邦人が異言を話し、また神を讃美しているのを、聞いたからである。そこでペトロは、

使10:47 “わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか”と言った。

使10:48 そして、イエス・キリストの名によって洗礼を受けるようにと、その人たちに命じた。それから、コルネリウスたちは、ペトロになお数日滞在するようにと願った。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使11:1 さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。

使11:2 ペトロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難して、

使11:3 “あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした”と言った。

使11:4 そこで、ペトロは事の次第を順序義しく説明し始めた。

使11:5 “わたしがヤッファの町にいて祈っていると、我を忘れたようになって幻を見ました。大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、天からわたしのところまで下りて来たのです。

使11:6 その中をよく見ると、地上の獣、野獣、這うもの、空の鳥などが入っていました。

使11:7 そして、‘ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい’と言う声を聞きましたが、

使11:8 わたしは言いました。‘主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にすることがありません。’

使11:9 すると、‘神が清めた物を、清くないなどと、あなたは行ってはならない’と、再び天から声が返って来ました。

使11:10 こういうことが三度あって、また全部の物が天に引き上げられてしまいました。

使11:11 そのとき、カイサリアからわたしのところに差し向けられた三人の人が、わたしたちのいた家に到着しました。

使11:12 すると、‘霊’がわたしに、‘ためらわないで一緒に行きなさい’と言われました。ここにいる六人の兄弟も一緒に来て、わたしたちはその人の家に入ったのです。

使11:13 彼は、自分の家に天使が立っているのを見たこと、また、その天使がこう告げたことを話してくれました。

‘ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。

使11:14 あなたと家族の者すべてを救う言葉をあなたに話してくれる。’

使11:15 わたしが話しだすと、聖霊が最初わたしたちの上に降ったように、彼らの上にも降ったのです。

使11:16 そのとき、わたしは、‘ヨハネ水で洗礼を授けたが、あなたがたは聖霊によって洗礼を受ける’と行っておられた主の言葉を思い出しました。

使11:17 こうして、主イエス・キリストを信じるようになったわたしたちに与えてくださったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったのなら、わたしのような者が、神がそうなさるのをどうして妨げることができたでしょうか。”

使11:18 この言葉を聞いて人々は静まり、“それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ”と行って、神を讃美した。

使11:19 ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかつた。

使11:20 しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。

使11:21 主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かつた。

使11:22 このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。

使11:23 バルナバはそこに到着すると、神の恵が与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。

使11:24 バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人が主へと導かれた。

使11:25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、

使11:26 見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

使11:27 そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。

使11:28 その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると‘霊’によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。

使11:29 そこで、弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた。

使11:30 そして、それを実行し、バルナバとサウロに託して長老たちに届けた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使12:1 そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、

使12:2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。

使12:3 そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。

使12:4 ヘロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出すつもりであった。

使12:5 こうして、ペトロは牢に入れられていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげられていた。

使12:6 ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。

使12:7 すると、主の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使はペトロのわき腹をつついて起こし、“急いで起き上がりなさい”と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。

使12:8 天使が、“帯を締め、履物を履きなさい”と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、“上着を着て、ついて来なさい”と言った。

使12:9 それで、ペトロは外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実のこととは思われなかつた。幻を見ているのだと思った。

使12:10 第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、ある通りを進んで行くと、急に天使は離れ去った。

使12:11 ペトロは我に返って言った。“今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、

またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救だしてくださったのだ。”

使12:12 こう分かったとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。

使12:13 門の戸をたたくと、ロデという女中が取り次ぎに出て来た。

使12:14 ペトロの声だと分かったと、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。

使12:15 人々は、“あなたは気が変になっているのだ”と言ったが、ロデは、本当だと言い張った。彼らは、“それはペトロを守る天使だろう”と言い出した。

使12:16 しかし、ペトロは戸をたたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペトロがいたので非常に驚いた。

使12:17 ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、“このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい”と言った。そして、そこを出てほかの所へ行った。

使12:18 夜が開けると、兵士たちの間で、ペトロはいったいどうなったのだろうと、大騒ぎになった。

使12:19 ヘロデはペトロを捜しても見つからないので、番兵たちを取り調べたうえで死刑にするように命じ、ユダヤからカイサリアに下って、そこに滞在していた。

使12:20 ヘロデ王は、ティルスとシドンの住民にひどく腹を立てていた。そこで、住民たちはそろって王を訪ね、その侍従ブラストに取り入って和解を願い出た。彼らの地方が、王の国から食糧を得ていたからである。

使12:21 定められた日に、ヘロデが王の服を着けて座に着き、演説をすると、

使12:22 集まった人々は、“神の声だ。人間の声ではない”と叫び続けた。

使12:23 するとたちまち、主の天使がヘロデを撃ち倒した。神に栄光を帰さなかったからである。ヘロデは、蛆に食ひ荒らされて息耐えた。

使12:24 神の言葉はますます栄え、広がって行った。

使12:25 バルナバとサウロはエルサレムのための任務を果たし、マルコと呼ばれるヨハネを連れて帰って行った。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使13:1 アンティオキアでは、そこの教会にバルナバ、ニケルと呼ばれるシメオン、キレネ人のルキオ、領主ヘロデと一緒に育ったアナエン、サウロなど、預言する者や教師たちがいた。

使13:2 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。‘さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さない。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。’

使13:3 そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。

使13:4 聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、それからキプロス島に向け船出し、

使13:5 サラミスに着くと、ユダヤ人の諸教会で神の言葉を告げ知らせた。二人は、ヨハネを助手として連れていた。

使13:6 島全体を巡ってパフォスまで行くと、ユダヤ人の魔術師で、ベルイエスという一人の偽預言者に会った。

使13:7 この男は、地方総督セルギウス・パウルスという懸命な人物と交際していた。総督はバルナバとサウロを招いて、神の言葉を聞こうとした。

使13:8 魔術師エリマール—彼の名前は魔術師という意味である—は二人に対抗して、地方総督をこの信仰から遠ざけようとした。

使13:9 パウロとも呼ばれていたサウロは、聖霊に満たされ、魔術師をにらみつけて、

使13:10 言った。“ああ、あらゆる偽りと欺きに満ちた者、悪魔の子、すべておん正義の敵、お前は主のまっすぐな道をどうしてもゆがめようとするのか。

使13:11 今こそ、主の御手はお前の上を下る。お前は目が見えなくなって、時が来るまで日の光を見ないだろう。”するとたちまち、魔術師は目がかすんできて、すっかり見えなくなり、歩き回りながら、だれか手を引いてくれる人を探した。

使13:12 総督はこの出来事を見て、主の教えに非常に驚き、信仰に入った。

使13:13 パウロとその一行は、パファスから船出してパンフィリア州のペルゲに来たが、ヨハネは一行と別れてエルサレムに帰ってしまった。

使13:14 パウロとバルナバはペルゲから進んで、ピシディア州のアンティオキアに到着した。そして、安息日に会

堂に入って席に着いた。

使13:15 律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、“兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください”と言わせた。

使13:16 そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して言った。“イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。

使13:17 この民イスラエルの神は、わつあいたちの先祖を選び出し、民がエジプトの地に住んでいる間に、これを強大なものとし、高く上げた御腕をもってそこから導き出してくださいました。

使13:18 神はおよそ四十年の間、荒れ野で彼らの行いを耐え忍び、

使13:19 カナンの地では七つの民衆を滅ぼし、その土地を彼らに相続させてくださったのです。

使13:20 これは、約四百五十年にわたることでした。その後、神は預言者サムエルの時代まで、裁く者たちを任命なさいました。

使13:21 後に人々が王を求めたので、神は四十年の間、ベニヤミン族の者で、キシユの子サウルをお与えになり、

使13:22 それからまた、サウルを退けてダビデを王の位につけ、彼について次のように宣言なさいました。‘わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う。’

使13:23 神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです。

使13:24 ヨハネは、イエスがおいでになる前に、イスラエルの民全体に悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。

使13:25 その生涯を終えようとするとき、ヨハネはこう言いました。‘わたしを何者だと思っているのか。わたしは、あなたがたが期待しているような者ではない。その方はわたしの後から来られるが、わたしはその足の履物をお脱がせする値打ちもない。’

使13:26 兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならびにあなたがたの中において神を畏れる人たち、この救いの言葉はわたしたちに送られました。

使13:27 エルサレムに住む人々やその指導者たちは、イエスを認めず、また、安息日ごとに読まれる預言者の言葉を理解せず、イエスを罪に定めることによって、その言葉を実現させたのです。

使13:28 そして、死に当たる理由は何も見いだせなかったため、イエスを死刑にするようにピラトに求めました。

使13:29 こうして、イエスについて書かれていることがすべて実現した後、人々はイエスを木から降ろし、墓に葬りました。

使13:30 しかし、神はイエスを死者の中から復活させてくださったのです。

使13:31 このイエスは、御自分と一緒にガリラヤからエルサレムに上った人々に、幾日にもわたって姿を現されました。その人たちは、今、民に対してイエスの証人ととなっています。

使13:32 わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。

使13:33 つまり、神はイエスを復活させて、わたしたち先祖のためにその約束を果たしてくださいました。それは詩編の第二編にも、‘あなたはわたしの子、わたしは教あなたを産んだ。’と書いてあるとおりです。

使13:34 また、イエスを死者の中から復活させ、もはや朽ち果てることがないようになさったことについては、‘わたしは、ダビデに約束した聖なる、確かな祝福をあなたたちに与える’と言っておられます。

使13:35 ですから、ほかの箇所にも、‘あなたは、あなたの聖なる者を朽ち果てるままにしてはおかれぬ’と言われていています。

使13:36 ダビデは、彼の時代に神の計画に仕えた後、眠りについて、祖先の列に加えられ、朽ち果てました。

使13:37 しかし、神が復活させたこの方は、朽ち果てることがなかったのです。

使13:38 だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、

使13:39 信じる者は皆、この方によって義とされるのです。

使13:40 それで、預言者の書に言われていることが起こらないように、警戒しなさい。

使13:41 ‘見よ、侮る者よ、驚け滅び去れ。わたしは、お前たちの時代に一つの事を行う。人がくわしく説明しても、お前たちはとうてい信じられない事を。’”

使13:42 パウロとバルナバが会堂を出るとき、人々は次の安息日にも同じことを話してくれるように頼んだ。

使13:43 集会が終わってからも、多くのユダヤ人と神をあがめる改宗者とがついて北ので、二人は彼らと語り合い、神の恵みの下に生き続けるように勧めた。

使13:44 次の安息日になると、ほとんど町中の人々が主の言葉を聞こうとして集って来た。

使13:45 しかし、ユダヤ人はこの群衆を見てひどくねたみ、口汚くののしって、パウロの話すことに反対した。

使13:46 そこで、パウロとバルナバは夕刊に語った。“神の言葉は、まずあなたがたに語られるはずでした。だがあなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠の命を得るに値しない者にしている。見なさい、わたしたちは異邦人の

方に行く。

使13:47 主はわたしたちにこう命じておられるからです。‘わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、あなたが、地の果てにまでも、救をもたらすために。’

使13:48 異邦人たちはこれを聞いて喜び、主の言葉を讚美した。そして、永遠の命を得るように定められている人は皆、信仰に入った。

使13:49 こうして、主の言葉はその地方全体に広まった。

使13:50 ところが、ユダヤ人は、神をあがめる貴婦人たちや町のおもだった人々を扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、その地方から二人を追い出した。

使13:51 それで、二人は彼らに対して足の塵を払い落とし、イコニオンに行った。

使13:52 他方、弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使14:1 イコニオンでも同じように、パウロとバルナバはユダヤ人の会堂に入って話をしたが、その結果、大勢のユダヤ人やギリシア人が信仰に入った。

使14:2 ところが、信じようとしないうダヤ人たちは、異邦人を扇動し、兄弟たちに対して悪意を抱かせた。

使14:3 それでも、二人はそこに永くとどまり、主を頼みとして勇敢に語った。主は彼らの手を通してしるしと不思議な業を行い、その恵みの言葉を証しされたのである。

使14:4 町の人々は分裂し、ある者はユダヤ人の側に、ある者は使徒の側についた。

使14:5 異邦人とユダヤ人が、指導者と一緒になった二人に乱暴を働き、石を投げつけようとしたとき、

使14:6 二人はこれに気づいて、リカオニア州の町であるリストラとデルベ、またその近くの地方に難を避けた。

使14:7 そして、そこでも福音を告げ知らせていた。

使14:8 リストラに、足の不自由な男が座っていた。生まれつき足が悪く、まだ一度も歩いたことがなかった。

使14:9 この人が、パウロの話すのを聞いていた。パウロは彼を見つめ、いやされるのにふさわしい信仰があるのを認め、

使14:10 “自分の足でまっすぐに立ちなさい”と大声で言った。すると、その人は踊り上がって歩きだした。

使14:11 群衆はパウロの行ったことを見て声を張り上げ、リカオニアの方言で、“神々が人間の姿をとって、わたしたちのところにお降りになった”と言った。

使14:12 そして、バルナバを“ゼウス”と呼び、またおもに話す者であることから、パウロを“ヒルメス”と呼んだ。

使14:13 町の外にあったゼウスの神殿の祭司が、家の門の所まで雄牛数頭と歯泡を運んで来て、群衆と一緒にになって二人にいけにえを献げようとした。

使14:14 使徒たち、すなわちバルナバとパウロはこのことを聞くと、服を裂いて群衆の中へ飛び込んで行き、叫んで

使14:15 言った。“皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、わたしたちは福音を告げ知らせています。この神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべて◆

14,15-1,あるすべてのを造られた方です。

使14:16 神は過ぎ去った時代には、すべての国の人が思い思いの道を行くままにしておかれました。

使14:17 しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです。”

使14:18 こう言って、二人は、群衆が自分たちにいけにえを献げようとするのを、やっつやめさせることができました。

使14:19 ところが、ユダヤ人たちがアンティオキアとイコニオンからやって来て、群衆を抱き込み、パウロは石を投げつけ、死んでしまったものと思って、町の外へ引きずり出した。

使14:20 しかし、弟子たちが周りを取り囲むと、パウロは起き上がって町に入って行った。そして翌日、バルナバと一緒にデルベへ向かった。

使14:21 二人はこの町で福音を告げ知らせ、多くの人を弟子にしてから、リストラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返ししながら、

使14:22 弟子たちを力づけ、“わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない”と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。

使14:23 また、弟子たちのため教会ごとに長老たちを任命し、断食して祈り、彼らをその信ずる主に任せた。

使14:24 それから、二人はピシディア州を通り、パンフィリア州に至り、

使14:25 ペルゲで御言葉を語った後、アタリアに下り、

使14:26 そこからアンティオキアへ向かって船出した。そこは、二人が今成り遂げた働きのために神の恵みにゆだねられて送り出された所である。

使14:27 到着するとすぐ教会の人々を集めて、神が自分たちと共にいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。

使14:28 そして、しばらくの間、弟子たちと共に過ごした。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使15:1 ある人がユダヤから下って来て、「モーセの観衆に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われまい」と兄弟たちに教えていた。

使15:2 それで、パウロはバルナバと那些人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた。この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか救命の者がエルサレムへ上ることに決まった。

使15:3 さて、一行は教会の人々から送り出されて、フェニキアとサマリア地方を通り、道すがら、兄弟たちに異邦人が改宗した次第をくわしく伝え、皆を大いに喜ばせた。

使15:4 エルサレムに到着すると、彼らは教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎され、神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した。

使15:5 ところが、ファリサイ齒から信者になった人が数名立って、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言った。

使15:6 そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。

使15:7 議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。「兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福音の言葉を来いて信じるようになるためです。

使15:8 人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです。

使15:9 また、彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。

使15:10 それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。

使15:11 わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。”

使15:12 すると全改宗は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。

使15:13 二人が話を終えると、キヤコブが答えた。「兄弟たち、聞いてください。

使15:14 神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなされた次第については、シメオンが話してくれました。

使15:15 預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。

使15:16 “その御、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕屋を建て治す。その破壊された所を建て直して、元どおりにする。

使15:17 それは、人々のうちの残った者や、わたしの名で喜ばれる異邦人が皆、主を求めようになるためだ。”昔から知らされていたことを行う主は、こう言われる。’

使15:19 それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。

使15:20 ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを裂けるようにと、手紙を書くべきです。

使15:21 モーセの律法は、昔からどの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。”

使15:22 そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。

使15:23 使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。“使徒と長老たちが巨大として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。

使15:24 聞くところによると、わたしたちのうちのある者がそちらへ行き、わたしたちから何の指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ動揺させたとのことです。

使15:25 それで、人を選び、わたしたちの愛するバルナバとパウロとに動向させて、そちらに派遣することを、わたしたちは満場一致で決定しました。

使15:26 このバルナバとパウロは、わたしたちの主イエス・キリストの名のために身を献げている人たちです。

使15:27 それで、ユダとシラスを選んで派遣しますが、彼らは同じことを高等でも説明するでしょう。

使15:28 聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。

使15:29 すなわち、偶像に献げられたものと、血と、締め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。”

使15:30 さて、彼ら一同は見送りを受けて出発し、アンティオキアに到着すると、信者全体を集めて手紙を手渡した。

使15:31 彼らはそれを読み、励ましに満ちた決定を知って喜んだ。

使15:32 ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟たちを励まし力づけ、

使15:33 しばらくここに滞在した後、兄弟たちから送別の挨拶を受けて見送られ、自分たちを派遣した人々のところへ帰って行った。

使15:35 しかし、パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって教え、他の多くの人と一緒に主の言葉の福音を告げ知らせた。

使15:36 数日の後、パウロはバルナバに言った。“さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか。”

使15:37 バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。

使15:38 しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教と一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。

使15:39 そこで、意見が激しく衝突し、彼らはずいに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、

使15:40 一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。

使15:41 そして、シリア州やキリキア州を回って教会を力づけた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使16:1 パウロは、デルベにもリストラにも行った。そこに、真はのユダヤ婦人の子で、ギリシア人を父親に持つ、テモテという弟子がいた。

使16:2 彼は、リストラとイコニオンの兄弟の間で評判の良い人であった。

使16:3 パウロは、このテモテと一緒に連れて行きたかったので、その地方に住むユダヤ人の手前、彼に割礼を授けた。父親がギリシア人であることを、皆が知っていたからである。

使16:4 彼らは方々の町を巡回して、エルサレムの使徒と長老たちが決めた規定を守るようにと、人々に伝えた。

使16:5 こうして、教会は信仰を強められ、日ごとに人数が増えていった。

使16:6 さて、彼らはアジア州の御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので、フリギア・ガラテヤ地方を通過して行った。

使16:7 ミシア地方の近くまで行き、ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった。

使16:8 それで、ミシア地方を通過してトロアスに下った。

使16:9 その夜、パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、“マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください”と行ってパウロに願った。

使16:10 パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである。

使16:11 わたしたちはトロアスから船出してサモトラケ島に直航し、翌日ネアポリスの港に着き、

使16:12 そこからマケドニア州第1区の都市で、ローマの植民都市であるフィリポに行った。そして、この町に数日間滞在した。

使16:13 安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思われる川岸に行った。そして、わたしたちもそこに座って、集まっていた婦人たちに話をした。

使16:14 ティアティラ出身の紫布を商う人で、神をあがめるリディアという婦人も話を聞いていたが、主が彼女の心を開かれたので、彼女はパウロの話に注意深く聞いた。

使16:15 そして、彼女も家族の者も洗礼を受けたが、そのとき、「私が主を信じる者だと思いでしたら、どうぞ、私の家に来てお泊まりください」と言ってわたしたちを招待し、無理に承知させた。

使16:16 わたしたちは、祈りの場所に行く途中、占いの霊に取りつかれている女奴隷に出会った。この女は、占いをして主人たちに多くの利益を得させていた。

使16:17 彼女は、パウロやわたしたちの後ろについて来てこう叫ぶのであった。「この人たちは、いと高き神に僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」

使16:18 彼女がこんなことを幾日も繰り返すので、パウロはたまりかねて振り向き、その霊に言った。「イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け。」すると即座に、霊が彼女から出て行った。

使16:19 ところが、この女の主人たちは、金もうけの望がなくなってしまったことを知り、パウロとシラスを捕らえ、役人に引き渡すために広場へ引き立てて行った。

使16:20 そして、二人を高官たちに引き渡してこう言った。「この者たちはユダヤ人で、わたしたちの町を混乱させております。」

使16:21 ローマ帝国の市民であるわたしたちが受け入れることも、実行することも許されない風習を宣伝しております。」

使16:22 群衆も一緒になって二人を責め立てたので、高官たちは二人の衣服をはぎ取り、「鞭で打て」と命じた。

使16:23 そして、何度も鞭で打ってから二人を牢に投げ込み、看守に厳重に美波留ように命じた。

使16:24 この命令を受けた看守は、二人をいちばん奥の牢に入れて、足には木の足枷をはめておいた。

使16:25 真夜中ごろ、パウロとシラスが讚美のうたをうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。

使16:26 突然、大自身が起こり、牢の土台が揺れ動いた。たちまち牢の戸がみな平木、すべての囚人の鎖も外れてしまった。

使16:27 目を覚ました看守は、牢の戸が開いているのを見て、囚人たちが逃げたしまったと思い込み、剣を抜いて自殺しようとした。

使16:28 パウロは大声で叫んだ。「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。」

使16:29 看守は、明かりを持って来させて牢の中に飛び込み、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し、

使16:30 二人を外へ連れ出して言った。「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。」

使16:31 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」

使16:32 そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。

使16:33 まだ真夜中であつたが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗ってやり、自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた。

使16:34 この後、二人を自分の家に案内して食事を出し、神を信じる者になったことを家族ともども喜んだ。

使16:35 朝になると、高官たちは下役たちを差し向けて、「あの者どもを釈放せよ」と言わせた。

使16:36 それで、看守はパウロにこの言葉を伝えた。「高官たちが、あなたがたを釈放するようにと、行ってよこしました。さあ、牢から出て、安心して行きなさい。」

使16:37 ところが、パウロは下役たちに言った。「高官たちは、ローマ帝国の市民権を持つわたしたちを、裁判にもかけずに公衆の面前で鞭打ってから投獄したのに、今ひそかに釈放しようとするのか。いや、それはいけない。高官たちが自分でここへ来て、わたしたちを連れ出すべきだ。」

使16:38 下役たちは、この言葉を高官たちに報告した。高官たちは、二人がローマ帝国の市民権を持つ者であると聞いて恐れ、

使16:39 出向いて来てわびを言い、二人を牢から連れ出し、町から出て行くように頼んだ。

使16:40 牢を出た二人は、リディアの家に行って兄弟たちに会い、彼らを励ましてから出発した。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使17:1 パウロとシラスは、アンフィボリスとアポロニアを経てテサロニケに着いた。ここにはユダヤ人の会堂があつ

た。

使17:2 パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い、

使17:3 “メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた”と、また、“このメシアはわたしが伝えているイエスである”と説明し、論証した。

使17:4 それで、彼らのうちのある者は信じて、パウロとシラスに従った。神をあがめる多くのギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちも同じように二人に従った。

使17:5 しかし、ユダヤ人たちはそれをねたみ、広場にたむろしているならず者を何人か抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして搜した。

使17:6 しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンは数人の兄弟を町の当局者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。“世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。

使17:7 ヤソンは彼らをかくまっているのです。彼らは行程の勅令に背いて、‘イエスという別の王がいる’と言っています。”

使17:8 これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。

使17:9 当局者たちはヤソンやほかの者たちから保障金を取ったうえで彼らを釈放した。

使17:10 兄弟たちは、直ちに夜のうちにパウロとシラスをベレアへ送り出した。二人はそこへ到着すると、ユダヤ人の会堂に入った。

使17:11 ここのユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御子賭場を受入、そのとおりでどうか、毎日、聖書を調べていた。

使17:12 そこで、そのうちの多くの人が信じ、ギリシア人の上流婦人や男たちも少なからず信仰に入った。

使17:13 ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、ベレアでもパウロによって神の言葉が宣べ伝えられていることを知ると、そこへも押しかけて来て、群衆を扇動し騒がせた。

使17:14 それで、兄弟たちは直ちにパウロを送り出して、海岸の地方へ行かせたが、シラスとテモテはベレアに残った。

使17:15 パウロに付き添った人々は、彼をアテネまで連れて行った。そしてできるだけ早く来るようにという、シラスとテモテに対するパウロの指示を受けて帰って行った。

使17:16 パウロはアテネで二人を待っている間に、この町の至るところに偶像があるのを見て憤慨した。

使17:17 それで、会堂ではユダヤ人や神をあがめる人々と論じ、また、広場では居合せた人々と毎日論じ合っていた。

使17:18 また、エピクロス派やストア派の幾人かの哲学者もパウロと討論したが、その中には、“このおしゃべりは、何を言いたいのだろうか”と言う者もいれば、“彼は外国の神々の宣伝をする者らしい”と言い者もいた。パウロが、イエスと復活について福音を告げ知らせていたからである◆

17,18-1,いたからである。

使17:19 そこで、彼らはパウロをアレオパゴスに連れて行き、こう言った。“あなたが説いているこの新しい教えがどんなものか、知らせてもらえないか。

使17:20 奇妙なことをわたしたちに聞かせているが、それがどんな意味なのか知りたいのだ。”

使17:21 すべてのアテネ人やそこに在留する外国人は、何か新しいことを話したり聞いたりすることだけで、時を過ごしていたのである。

使17:22 パウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。“アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、わたしは認めます。

使17:23 道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見てみると、‘知られざる神に’刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。

使17:24 世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。

使17:25 また、何が足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と行きと、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。

使17:26 神は、一人の人からすべての民族を造り出して、地上の至るところに住ませ、季節を決め、彼らの居住地の教会をお決めになりました。

使17:27 これは、人に神を求めさせえるためであり、また、彼らが探し求めさえすれば、神を御いやすことができるようにということなのです。実際、神はわつたち一人一人から遠く離れてはおられません。

使17:28 皆さんのうちのある詩人たちも、‘彼らは神の中に生き、動き、存在する’我々もその子孫である’と、言っているとおりです。

使17:29 わたしたちは神の子孫なのですから、神である方を、人間の技や考えで造った金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。

使17:30 さて、神はこのような無知な時代を、大目に見てくださいましたが、今はどこにいる人でも皆悔い改めるようにと、命じておられます。

使17:31 それは、先にお選びになった一人の方によって、この世を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確証をお与えになったのです。”

使17:32 死者の復活ということを聞くと、ある者はあざ笑い、ある者は、“それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう”と言った。

使17:33 それで、パウロはその場を立ち去った。

使17:34 しかし、彼について行って信仰に入った者も、何人かいた。その中にはアレオパゴス議員ディオニシオ、またダマリスという婦人やその他の人々もいた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使18:1 その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。

使18:2 ここで、ポントス州出身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が全ユダヤ人をローマから退去させるようにと命令したので、最近イタリアから来たのである。パウロはこの二人を訪ね、

使18:3 職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。

使18:4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人ギリシア人の説得に努めていた。

使18:5 シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると力強く証した。

使18:6 しかし、彼らが氾濫し、口汚くののしったので、パウロは服の塵を振り払って言った。“あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。”

使18:7 パウロはそこを去り、神をあがめるティティオ・エストという人の家に移った。彼の家は会堂の隅にあった。

使18:8 会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を来いて信じ、洗礼を受けた。

使18:9 ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。“恐れるな。語り続けよ。黙っているな。

使18:10 わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。”

使18:11 パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

使18:12 ガリオンがアカイ州の地方総督であったときのことである。ユダヤ人たちが一団となってパウロを襲い、法定に引き立てて行って、

使18:13 “この男は、律法に違反するようししかたで神をあがめるようにと、人々を唆しております”と言った。

使18:14 パウロが話し始めようとしたとき、ガリオンはユダヤ人に向かって言った。“ユダヤ人諸君、これが不正な行為とか悪質な犯罪とかであるならば、当然諸君の訴えを受理するか、

使18:15 問題が教えとか名称とか諸君の律法に関するものならば、自分たちで解決するがよい。わたしは、そんなことの審判者になるつもりはない。”

使18:16 そして、彼らを法定から追い出した。

使18:17 すると、群衆は会堂長のソステネを捕まえて、法定の前で殴りつけた。しかし、ガリオンはそれに全く心を留めなかった。

使18:18 パウロは、なおしばらくの間ここに滞在したが、やがて兄弟たちに別れを告げて、船でシリア州へ旅立った。プリスキラとアキラも同行した。パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアイで髪を切った。

使18:19 一行がエフェソに到着したとき、パウロは二人をそこに残して自分だけ会堂に入り、ユダヤ人と論じ合った。

使18:20 人々はもうしばらく滞在するように願ったが、パウロはそれを断り、

使18:21 “髪の御心ならば、また戻って来ます”と行って別れを告げ、エフェソから船出した。

使18:22 カイサリアに到着して、教会に挨拶をするためにエルサレムへ上り、アンティオキアに下った。

使18:23 パウロはしばらくここで過ごした後、また旅に出て、ガラテヤフリギアの地方を次々に巡回し、すべての弟子たちを力づけた。

使18:24 さて、アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、聖書に詳しいアポロという雄弁家が、エフェソに来た。

使18:25 彼は主の道を受け入れており、イエスのことについて熱心に語り、正確に教えていたが、ヨハネの洗礼し
か知らなかった。

使18:26 このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを来いたプリスキラとアクィラは、彼を真似て、もっと正確
に神の道を説明した。

使18:27 それから、アポロがアカイア州に渡ることを望んでいたため、兄弟たちはアポロを励まし、かの地の弟子た
ちに彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。アポロはそこへ着くと、既に恵みによって信じていた人々を大いに
助けた。

使18:28 彼が聖書に基づいて、メシアはイエスであると公然と立証し、激しい語調でユダヤ人たちを説き伏せた
からである。

使***:
使***:
使***:
使***:
使***:

使19:1 アポロがコリントにいたときのことである。パウロは、内陸の地方を通してエフェソに下って来て、何人かの
弟子に出会い、

使19:2 彼らに、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と言うと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか。聞いた
こともありません」と言った。

使19:3 パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と言うと、「ヨハネの洗礼です」と言った。

使19:4 そこで、パウロは言った。「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔
い改めの洗礼を授けたのです。」

使19:5 人々はこれを聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。

使19:6 パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。

使19:7 この人たちは、皆で十二人ほどであった。

使19:8 パウロは会堂に入って、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説明しようとした。

使19:9 しかしある者たちが、かたくなで信じようとはせず、会衆の前でこの道を避難したので、パウロは彼らから
離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じていた。

使19:10 このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが
主の言葉を聞くことになった。

使19:11 髪は、パウロの手を通して目覚ましい奇跡を行われた。

使19:12 彼が身に着けていた手ぬぐいや前掛けを持って行って病人に当てると、病人はいやされ、悪霊どもも出
て行くほどであった。

使19:13 ところが、各地を巡り歩くユダヤ人の祈禱師たちの中にも、悪霊どもに取りつかれている人々に向かい、
試みに、主イエスの名を唱えて、「パウロが宣べ伝えているイエスによって、お前たちに命じる」と言う者があつた。

使19:14 ユダヤ人の祭司長スケワという者の七人の息子たちがこんなことをしていた。

使19:15 悪霊は彼らに言い返した。「イエスのことは知っている。パウロのこともよく知っている。だが、いったいお
前たちは何者だ。」

使19:16 そして、悪霊に取りつかれている男が、この祈禱師たちに飛びかかって押さえつけ、ひどい目に遭わせ
たので、彼らは裸にされ、傷つけられて、その家から逃げ出した。

使19:17 このことがエフェソに住むユダヤ人やギリシア人すべてに知れ渡ったので、人々はみな恐れを抱き、主
イエスの名は大いにあがめられるようになった。

使19:18 信仰に入った大勢の人が来て、自分たちの悪行をはっきり告白した。

使19:19 また、魔術を行っていた多くの者も、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を見積もつ
てみると、銀貨五万枚にもなった。

使19:20 このようにして、主の言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった。

使19:21 このようなことがあつた後、パウロは、マケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行こうと決心し、「わた
しはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない」と言った。

使19:22 そして、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストの二人をマケドニア州に送り出し、彼自身はし
ばらくアジア州にとどまっていた。

使19:23 そのころ、この道のことですでならぬ騒動が起こった。

使19:24 そのいきさつは次のとおりである。デメトリオという銀細工師が、アルテミスの神殿の模型を銀で造り、職人たちにかなり利益を得させていた。

使19:25 彼は、この職人たちや同じような仕事をしている者たちを集めて言った。“諸君、御承知のように、この仕事のお陰で、我々はもうけているのだが、

使19:26 諸君が見聞きしているとおり、あのパウロは‘手で造ったものなどは髪ではない’と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、たぶらかしている。

使19:27 これでは、我々の仕事の評判が悪くなってしまうおそれがあるばかりでなく、偉大な女神アルテミスの神殿もないがしろにされ、アジア州全体、全世界があがめるこの女神の御威光さえも失われてしまうだろう。”

使19:28 これを聞いた人々はひどく腹を立て、“エフェソ人のアルテミスは偉い方”と呼びだした。

使19:29 そして、町中が混乱してしまった。彼らは、パウロの同行者であるマケドニア人ガイオとアリスタルコを捕らえ、一団となって野外劇場になだれ込んだ。

使19:30 パウロは群衆の中へ入っていきこうとしたが、弟子たちはそうさせなかった。

使19:31 他方、パウロの友人でアジア州の祭儀をつかさどる交換たちも、パウロに使いをやって、劇場に入らないようにと頼んだ。

使19:32 さて、群衆はあれやこれやとわめき立てた。集会は混乱するだけで、大多数の者は何のために集まったのかさえ分からなかった。

使19:33 そのとき、ユダヤ人が前へ押し出したアレクダイドロという男に、群衆の中のある者たちが話すように促したので、彼は手で制し、群衆に向かって弁明しようとした。

使19:34 しかし、彼がユダヤ人であると知った群衆は一斉に、“エフェソ人のアルテミスは偉い方”と二時間ほども叫び続けた。

使19:35 そこで、まちの書記官が群衆をなだめて言った。“エフェソの諸君、エフェソの町が、偉大なアルテミスの神殿と天から降って来た御神体との守り役であることを、知らない者はないのだ。

使19:36 これを否定することはできないのだから、静かにしなさい。決して無謀なことをしてはならない。

使19:37 諸君がここへ連れて来た者たちは、神殿を荒らしたのでも、我々の女神を冒流したのでもない。

使19:38 デメトリオと仲間の職人が、だれかを訴え出たいのなら、決められた日に法定は開かれるし、地方総督もいることだから、相手を訴え出なさい。

使19:39 それ以外のことで更に要求があるなら、正式な会議で解決してもらうべきである。

使19:40 本日のこの事態に関して、我々は暴動の罪に問われるおそれがある。この無秩序な集会のことで、何一つ弁解する理由はないからだ。”こう言って、書記官は集会を解散させた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使20:1 この騒動が収まった後、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げてからマケドニア州へと出発した。

使20:2 そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシアに来て、

使20:3 そこで三か月を過ごした。パウロは、シリア州に向かって船出しようとしていたとき、彼に対するユダヤ人の陰謀があったので、マケドニア州を通過して帰ることにした。

使20:4 動向した者は、ピロの子でベレア出身のソパトロ、テサロニケのアリスタルコとセクンド、デルベのガイオ、テモテ、それにアジア州出身のティキコとトロフィモであった。

使20:5 この人たちは、先に出発してトロアスでわたしたちを待っていたが、

使20:6 わたしたちは、除酵祭の後フィリピから船出し、五日でトロアスに来て彼らと落ち合い、七日間そこに滞在した。

使20:7 週の初めの日、わたしたちがパンを裂くために集まっていると、パウロは翌日出発する予定で人々に話をしたが、その話は夜中まで続いた。

使20:8 わたしたちが集まっていた階上の部屋には、たくさんのともし火がついていた。

使20:9 エウティコという青年が、窓に腰を掛けていたが、パウロの話が長々と続いたので、ひどく眠気を催し、眠りこけて三会から下に落ちてしまった。起こしてみると、もう死んでいた。

使20:10 パウロは降りて行き、彼の上にかがみ込み、抱きかかえて言った。“騒ぐな。まだ生きている。”

使20:11 そして、また上に行って、パンを裂いて食べ、夜明けまで長い間話し続けてから出発した。

使20:12 人々は生き返った青年を連れて帰り、大いに慰められた。

使20:13 さて、わたしたちは先に船に乗り込み、アソスに向けて船出した。パウロをそこから乗船させる予定であった。これは、パウロ自身が徒歩で旅行するつもりで、そう指示しておいたからである。

使20:14 アソスでパウロと落ち合ったので、わたしたちは彼を船に乗せてミティレネに着いた。

使20:15 翌日、そこを船出し、キオス島の沖を過ぎ、その次の日サモス島に寄港し、更にその翌日にはミレトスに到着した。

使20:16 パウロは、アジア州で時を費やさないように、エフェソには寄らないで航海することに決めていたからである。できれば五旬祭にはエルサレムに着いていたかったので、旅を急いだのである。

使20:17 パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。

使20:18 長老たちが集まって来たとき、パウロはこう話した。“アジア州に来た最初の日以来、わたしがあなたがたと共にどのように過ごしてきたかは、よくご存じです。

使20:19 すなわち、自分を全く取るに足りない者と思い、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身にふりかかっていた試練に遭いながらも、主にお仕えてきました。

使20:20 役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。

使20:21 神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証ししてきたのです。

使20:22 そして今、わたしは、'霊'に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分かりません。

使20:23 ただ、投獄と苦難とわたしを待ち受けているということだけは、聖霊がどの町でもはっきり告げてくださっています。

使20:24 しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して押し入とは思いません。

使20:25 そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。

使20:26 だから、特に今日ははっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。

使20:27 わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。

使20:28 どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなされた神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なされたのです。

使20:29 わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。

使20:30 また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。

使20:31 だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

使20:32 そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべてお人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。

使20:33 わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。

使20:34 ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。

使20:35 あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が受けるよりは与える方が幸いであると言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。”

使20:36 このように話してから、パウロは皆と一緒にひざますいて祈った。人々は皆激しく泣き、パウロの首を抱いて接吻した。

使20:37 特に、自分の顔をもう二度と見ることはあるまいとパウロが言ったので、非常に悲しんだ。人々はパウロを船まで見送りに行った。

使***:

使21:1 わたしたちは人々に別れを告げて船出し、コス島に直航した。翌日ロドス島に着き、そこからパタラに渡り、

使21:2 フェニキアに行く船を見つけたので、それに乗って出発した。

使21:3 やがてキプロス島が見えてきたが、それを左にして通り過ぎ、シリア州に向かって船旅を続けてティルスの港に着いた。ここで船は、荷物を陸揚げすることになっていたのである。

使21:4 わたしたちは弟子たちを探し出して、そこに七日間泊まった。彼らは'霊に動かされ、エルサレムへ行かないようにと、パウロに繰り返して言った。

使21:5 しかし、滞在期間が過ぎたとき、わたしたちはそこを去って旅を続けることにした。彼らは皆、妻や子供を連れて、町外れまで見送りに来てくれた。そして、共に浜辺にひざまずいて祈り、

使21:6 互いに別れの挨拶を交わし、わたしたちは船に乗り込み、彼らは自分の家に戻って行った。

使21:7 わたしたちは、ティルスから航海を続けてプトレマイスに着き、兄弟たちに挨拶して、彼らのところで一日を過ごした。

使21:8 翌日そこをたってカイサリアに赴き、例の七人の一人である福音宣教者フィリポの家に行き、そこに泊まった。

使21:9 この人には預言する四人の未婚の娘がいた。

使21:10 幾日か滞在していたとき、ユダヤからアガボという預言する者が下って来た。

使21:11 そして、わたしたちのところに来て、パウロの帯を取り、それで自分の手足を縛って言った。'聖霊がこうお告げになっている。'エルサレムでユダヤ人は、この帯の持ち主をこのように縛って異邦人の手に引き渡す。'"

使21:12 わたしたちはこれを聞き、土地の人と一緒に、エルサレムへは上らないようにと、パウロにしきりに頼んだ。

使21:13 そのとき、パウロは答えた。"泣いたり、わたしの心をくじいたり、いったいこれはどういうことですか。主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、わたしは覚悟しているのです。"

使21:14 パウロがわたしたちの勧めを聞き入れようとしないので、わたしたちは、"主の御心が行われますように"と言って、口をつぐんだ。

使21:15 数日たって、わたしたちは旅の準備をしてエルサレムに上った。

使21:16 カイサリアの弟子たちも数人同行して、わたしたちがムナソンという人の家に泊まれるように案内してくれた。ムナソンは、キプロス島の出身で、ずっと以前から弟子であった。

使21:17 わたしたちがエルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで迎えてくれた。

使21:18 翌日、パウロはわたしたちを連れてヤコブを訪ねたが、そこには長老が皆集まっていた。

使21:19 パウロは挨拶を済ませてから、自分の奉仕を通して神が異邦人の間で行われたことを、詳しく説明した。

使21:20 これを聞いて、人々は皆神を讃美し、パウロに言った。"兄弟よ、ご存じのように、幾万人ものユダヤ人が信者になって、皆熱心に律法を守っています。"

使21:21 この人たちがあなたについて聞かされているところによると、あなたは異邦人の間にいる全ユダヤ人に対して、'子供に割礼を施すな。慣習に従うな'と言って、モーセから離れるように教えているとのこと。"

使21:22 いったい、どうしたらよいでしょうか。彼らはあなたの来られたことをきくと耳にします。"

使21:23 だから、わたしたちの言うとおりにしてください。わたしたちの中に誓願を立てた者が四人います。"

使21:24 この人たちを連れて行って一緒に身を清めてもらい、彼らのために頭をそる費用を出してください。そうすれば、あなたについて気化されていることが根も葉もなく、あなたは律法を守って正しく生活している、ということがみんなに分かります。"

使21:25 また、異邦人で信者になった人たちについては、わたしたちは既に手紙を書き送りました。それは、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口にしないように、また、みだらな行いを避けるようにという決事です。"

使21:26 そこで、パウロはその四人を連れて行って、翌日一緒に清めの式を受けて神殿に入り、いつ清めの期間が終って、それぞれのために供え物を献げることができるかを告げた。"

使21:27 七日の期間が終わろうとしていたとき、アジア州から来たユダヤ人たちが神殿の境内でパウロを見つけ、全群衆を扇動して彼を捕らえ、

使21:28 こう叫んだ。"イスラエルの人たち、手伝ってくれ。この男は、民と律法とこの場所を無視することを、至るところでだれにでも教えている。その上、ギリシア人を境内に連れ込んで、この聖なる場所を汚してしまった。"

使21:29 彼らは、エフェソ出身のトロフィモが前に都でパウロと一緒にいたのを見かけたので、パウロが彼を境内に連れ込んだのだと思ったからである。"

使21:30 それで、都全体は大騒ぎになり、民衆は駆け寄って来て、パウロを捕らえ、境内から引きずり出した。そして、門はどれもすぐに閉ざされた。"

使21:31 彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、守衛大隊の千人隊長のもとに届いた。"

使21:32 千人隊長は直ちに兵士と百人隊長を率いて、その場に駆けつけた。群衆は千人隊長と兵士を見ると、パウロを殴るのをやめた。

使21:33 千人隊長は近寄ってパウロを捕らえ、二本の鎖で縛るように命じた。そして、パウロが何者であるのか。また、何をしたのかと尋ねた。

使21:34 しかし、群衆はあれやこれやと叫び立てていた。千人隊長は、騒々しくて真相をつかむことができないので、パウロを兵営に連れて行くように命じた。

使21:35 パウロが階段にさしかかったとき、群衆の暴行を避けるために、兵士たちは彼を担いで行かなければならなかった。

使21:36 大勢の民衆が、「その男を殺してしまえ」と叫びながらついて来たからである。

使21:37 パウロは兵営の中に連れて行かれそうになったとき、「ひと言お話ししてもよいでしょうか」と千人隊長に言った。すると、千人隊長が尋ねた。「ギリシア語が話せるのか。」

使21:38 それならお前は最近氾濫を起こし、四千人の暗殺者を引き連れて荒れ野へ行った、あのエジプト人ではないのか。”

使21:39 パウロは言った。「わたしは確かにユダヤ人です。キリキア州のれっきとした町、タルソスの市民です。どうか、この人たちに話をさせてください。」

使21:40 千人隊長が許可したので、パウロは階段の上に立ち、民衆を手で制した。すっかり静かになったとき、パウロはヘブライ語で話し始めた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使22:1 “兄弟であり乳である皆さん、これから申し上げる弁明を来いてください。”

使22:2 パウロがヘブライ語で話すのを聞いて、人々はますます静かになった。パウロは言った。

使22:3 “わたしは、キリキア州のタルソスで生れたユダヤ人です。そして、この都で育ち、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しい教育を受け、今日の皆さんと同じように、熱心に神に仕えていました。

使22:4 わたしはこの道を迫害し、男女を問わず縛り上げて獄に投じ、殺すことさえしたのです。

使22:5 このことについては、大祭司も長老会全体も、わたしのために証言してくれます。実は、この人たちからダマスコにいる同志にあてた手紙までもらい、その地にいる者たちを縛り上げ、エルサレムへ連行して処罰するために出かけて行ったのです。”

使22:6 “旅を続けてダマスコに近づいたときのこと、真昼ごろ、突然、天から強い光がわたしの周りを照らししました。

使22:7 わたしは地面に倒れ、‘サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか’と言う声を聞いたのです。

使22:8 ‘主よ、あなたはどなたですか’と尋ねると、‘わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスである’と答えがありました。

使22:9 一緒にいた人々は、その光は見たのですが、わたしに話しかけた方の声は聞きませんでした。

使22:10 ‘主よ、どうしたらよいでしょうか’と申しますと、主は、‘立ち上がってダマスコへ行け。しなければならないことは、すべてそこで知らされる’と言われました。

使22:11 わたしは、その光の輝きのために目が見えなくなっていましたので、一緒にいた人たちに手を引かれて、ダマスコに入りました。

使22:12 ダマスコにはアナニアという人がいました。律法に従って生活する信仰深い人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人の中で評判の良い人でした。

使22:13 この人がわたしのところに来て、そばに立ってこう言いました。‘兄弟サウル、元どおり見えるようになりなさい。’するとそのとき、わたしはその人が見えるようになったのです。

使22:14 アナニアは言いました。‘わたしたちの先祖の神が、あなたをお選びになった。それは、御心を悟らせ、あの正しい方に会わせて、その口からの声を聞かせるためです。

使22:15 あなたは、見聞きしたことについて、すべての人に対してその方の証人となる者だからです。

使22:16 今、何をためらっているのです。立ち上がりなさい。その方の名を唱え、洗礼を受けて罪を洗い清めなさい。’”

使22:17 “さて、わたしはエルサレムに帰って来て、神殿で祈っていたとき、割れを忘れた状態になり、

使22:18 主にお会いしたのです。主は言われました。‘急げ、すぐエルサレムから出て行け。わたしについてあなたが証しすることを、人々が受け入れないからである。’

使22:19 わたしは申しました。'主よ、わたしが会堂から会堂へと回って、あなたを信じる者を投獄したり、鞭で打ちたたいたりしていたことを、この人々は知っています。'

使22:20 また、あなたの証人ステファノの血が流されたとき、わたしもその羽にいてそれに賛成し、彼を殺す者たちの上着の番もしたのです。'

使22:21 すると、主は言われました。'行け、わたしがあなたを遠く異邦人のために遣わすのだ。''

使22:22 パウロの話をここまで聞いた人々は、声を張り上げて行った。"こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない。"

使22:23 彼らがわきめ立てて上着を投げつけ、砂埃を空中にまき散らすほどだったので、

使22:24 千人隊長はパウロを兵營に入れるように命じ、人々がどうしてこれほどパウロに対してわめき立てるのかを知るため、鞭で打ちたたいて調べるようにと言った。

使22:25 パウロを鞭で打つため、その両手を広げて縛ると、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。"ローマ定刻の市民権を持つ者を、裁判にかけずに鞭で打つてよいのですか。"

使22:26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところへ行って報告した。"どうなさいですか。あの男はローマ定刻の市民です。"

使22:27 千人隊長はパウロのところへ来て言った。"あなたはローマ帝国の市民なのか。わたしに言いなさい。"パウロは、"そうです"と言った。

使22:28 千人隊長が、"わたしは、多額の金を出してこの市民権を得たのだ"と言うと、パウロは、"わたしは生まれながらローマ帝国の市民です"と言った。

使22:29 そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、直ちに手を引き、千人隊長もパウロがローマ帝国の市民であること、そして、彼を縛ってしまったことを知って恐ろしくなった。

使22:30 翌日、千人隊長は、なぜパウロがユダヤ人から訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を外した。そして、祭司長たちと最高法院全体の召集を命じ、パウロを連れ出して彼らの前に立たせた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使23:1 そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。"兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも両親に従って神の前で生きてきました。"

使23:2 すると、大祭司アナニアは、パウロの近くに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。

使23:3 パウロは大祭司に向かって言った。"白く塗った壁よ、神があなたをお打ちになる。あなたは、律法に従ってわたしを裁くためにそこに座っていないながら、律法に背いて、わたしを打て、と命令するのですか。"

使23:4 近くに立っていた者たちが、"神の大祭司をののしる気か"と言った。

使23:5 パウロは言った。"兄弟たち、その人が大祭司だとは知りませんでした。確かに、'あなたの民の指導者を悪く言うな'と書かれています。"

使23:6 パウロは、議員の一部がサドカイ派、一部がファリサイ派であることを知って、議場で声を高めて言った。"兄弟たち、わたしは生まれながらのファリサイ派です。死者が復活するという望を抱いていることで、わたしは裁判にかけられているのです。"

使23:7 パウロがこう言ったので、ファリサイ派とサドカイ派との間に論争が生じ、最高法定は分裂した。

使23:8 サドカイ派は復活も天使も霊もないと言い、ファリサイ派はこのいずれをも認めているからである。

使23:9 そこで、騒ぎは大きくなった。ファリサイ派の数人の律法学者が立ち上がって激しく論じ、"この人には何の悪い点も見いだせない。霊か天使かが彼に話しかけたのだろうか"と言った。

使23:10 こうして、論争が激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと心配し、兵士たちに、下りて行って人々の中からパウロを力づくで助け出し、兵營に連れて行くように命じた。

使23:11 その夜、主はパウロのそばに立って言われた。"勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならない。"

使23:12 夜が明けると、ユダヤ人たちは陰謀をたくらみ、パウロを殺すまでは飲み食いしないという誓いを立てた。

使23:13 このたくらみに加わった者は、四十人以上もいた。

使23:14 彼らは、祭司長たちや長老たちのところへ行って、こう言った。"わたしたちは、パウロを殺すまでは何も食べないと、固く誓いました。"

使23:15 ですから今、パウロについてもっと詳しく調べるといふ口実を設けて、彼をあなたがたのところへ連れて来

るように、最高法院と組んで千人隊長に願い出てください。わたしたちは、彼がここへ来る前に殺してしまう手はずを整えています。”

使23:16 しかし、この陰謀をパウロの姉妹の子が聞き込み、兵営の中に入って来て、パウロに知らせた。

使23:17 それで、パウロは百人隊長の一人を呼んで言った。“この若者を千人隊長のところへ連れて行ってください。何か知らせることがあるそうです。”

使23:18 そこで百人隊長は、若者を千人隊長のもとに連れて行き、こう言った。“囚人パウロがわたしを呼んで、この若者をこちらに連れて来るように頼みました。何か話したことがあるそうです。”

使23:19 千人隊長は、若者の手を取って人のいない所へ行き、“知らせたいこととは何か”と尋ねた。

使23:20 若者は言った。“ユダヤ人たちは、パウロのことをもっと詳しく調べるといふ口実で、明日パウロは最高法院に連れて来るようにと、あなたに願いでることに決めています。

使23:21 どうか、彼らの言いなりにならないでください。彼らのうち四十人以上が、パウロを殺すまでは飲み食いしないと誓い、陰謀をたくらんでいるのです。そして、今その手はずを整えて、御承諾を待っているのです。”

使23:22 そこで千人隊長は、“このことをわたしに知らせたとは、だれにも言うな”と命じて、若者を帰した。

使23:23 千人隊長は百人隊長二人を呼び、“今夜九時カイサリアへ出発できるように、歩兵二百名、騎兵七十名、補助兵二百名を準備せよ”と言った。

使23:24 また、馬を用意し、パウロを乗せて、総督フェリクスのもとへ無地に護送するように命じ、

使23:25 次のような内容の手紙を書いた。

使23:26 “クラウディウス・リシアが総督フェリクス閣下に御挨拶申し上げます。

使23:27 この者がユダヤ人に捕らえられ、殺されようとしていたのを、わたしは兵士たちを率いて救い出しました。ローマ定刻の市民権を持つ者であることが分かったからです。

使23:28 そして、告発されている理由を知ろうとして、最高法院に連行しました。

使23:29 ところが、彼が告発されているのは、ユダヤ人の律法に関する問題であって、死刑や投獄に相当する理由はないことが分かりました。

使23:30 しかし、この者に対する陰謀があるという報告を受けましたので、直ちに閣下のもとに護送いたします。告発人たちには、この者に関する件を閣下に訴え出るようにと、命じておきました。”

使23:31 さて、歩兵たちは、命令どおりにパウロを引き取って、夜のうちにアンティパトリス・パトリスまで連れて行き、

使23:32 翌日、騎兵たちに護送を任せて兵営へ戻った。

使23:33 騎兵たちはカイサリアに到着すると、手紙を総督に届け、パウロを引き渡した。

使23:34 総督は手紙を呼んでから、パウロがどの州の出身であるかを尋ね、キリキア州の出身だと分かったと、

使23:35 “お前を告発する者たちが到着してから、尋問することにする”と言った。そして、ヘロデの官邸にパウロを留置しておくように命じた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使24:1 五日の後、大祭司アナニアは、長老数名と弁護士テルティロという者を連れて下って来て、総督にパウロを訴え出た。

使24:2 パウロが呼び出されると、テルティロは告発を始めた。“フェリクス閣下、閣下のお陰で、私どもは十分に平和を享受しております。また、閣下の御配慮によって、いろいろな改革がこの国で勧められています。私どもは、あらゆる面で、至るところで、このことを認めて称賛申し上げ

24:2-1, 称賛申し上げ、また心から感謝しているしだいです。

使24:4 さて、これ以上御迷惑にならないよう手短かに申し上げます。御寛容をもってお聞きください。

使24:5 実は、この男は疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒動を引き起こしている者、‘ナザレ人の分派’の主謀者であります。

使24:6 この男は神殿さえも汚そうとしましたので逮捕いたしました。

使24:8 閣下御自身でこの者をお調べくだされば、私どもの告発したことがすべてお分かりになるかと存じます。”

使24:9 他のユダヤ人たちもこの告発を支持し、そのとおりであると申し立てた。

使24:10 総督が、発言するように合図したので、パウロは答弁した。“私は、閣下が多年この国民の裁判をつかさどる方であることを、存じ挙げておりますので、私自身のことを喜んで弁明いたします。

使24:11 確かめていただければ分かることですが、私が礼拝のためエルサレムに上ってから、まだ十二日しかたっていない。

使24:12 神殿でも会堂でも町の中でも、この私がだれかと論争したり、群衆を扇動したりするのを、だれも見た者はおりません。

使24:13 そして彼らは、私を告発している件に関し、閣下に対して何の証拠も上げることができません。

使24:14 しかしここで、はっきり申し上げます。私は、彼らが‘分派’と四でいるこの道に従って、先祖の神を礼拝し、また、律法に則したことと預言者の書に書いてあることを、ことごとく信じています。

使24:15 更に、正しい者も義しくない者もやがて復活するという希望を、神に対して抱いています。この希望は、この人たち自身も同じように抱いております。

使24:16 こういうわけで私は、神に対しても人に対しても、責められることのない両親を絶えず保つように努めています。

使24:17 さて、私は、同胞に救援金を渡すため、また、供え物を献げるために、何年ぶりかで戻って来ました。

使24:18 私が清めの式にあずかってから、神殿で供え物を献げているところを、人に見られたのですが、別に群衆もいませんし、騒動もありませんでした。

使24:19 ただ、アジア州から来た数人のユダヤ人はいました。もし、私を訴えるべき理由があるというのであれば、この人たちがそ閣下のところに出頭して告発すべきだったのです。

使24:20 さもなければ、ここにいる人たちが自身が、最高法院に出頭していた私にどんな不明を見つけたか、今言うべきです。

使24:21 彼らの中に立って、‘死者の復活のことで、私は今日あなたがたの前で裁判にかけられているのだ’と叫んだだけなのです。”

使24:22 フェリクスは、この道についてかなり詳しく知っていたので、“千人隊長リシアが下って来るのを待って、あなたたちの申し立てに対して判決を下すことにする”と言って裁判を延期した。

使24:23 そして、パウロを監禁するように、百人隊長に命じた。ただし、自由をある程度与え、友人たちが彼の世話をするのを妨げないようにさせた。

使24:24 数日の後、フェリクスはユダヤ人である妻のドルシラと一緒に来て、パウロを呼び出し、キリスト・イエスへの信仰について話を聞いた。

使24:25 しかし、パウロが正義や節制や来るべき裁きについて話すと、フェリクスは恐ろしくなり、“今回はこれで帰ってよろしい。また適当な機会に呼び出すことにする”と言った。

使24:26 だが、パウロから金をもらおうとする下心もあったので、たびたび呼び出しては話し合っていた。

使24:27 さて、二年たって、フェリクスの後任者としてポルキウス・フェストゥスが赴任したが、フェリクスは、ユダヤ人に気に入られようとして、パウロを監禁したままにしておいた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使25:1 フェストゥスは、総督として着任して三日たってから、カイサリアからエルサレムへ上った。

使25:2 祭司長たちやユダヤ人のおもだった人々は、パウロを訴え出て、彼をエルサレムへ送り返すよう計らっていただきたいと、フェストゥスに頼んだ。途中で殺そうと陰謀をたくらんでいたのである。

使25:4 ところがフェストゥスは、パウロはカイサリアで監禁されており、自分も間もなくそこへ帰るつもりであると答え、

使25:5 “だから、その男に不都合なところがあるというのなら、あなたのうちの有力者が、わたしと一緒に下って行って、告発すればよいではないか”と言った。

使25:6 フェストゥスは、八日か十日ほど彼らの間で過ごしてから、カイサリアへ下り、翌日、裁判の席に着いて、パウロを引き出すように命令した。

使25:7 パウロが出廷すると、エルサレムから降って来たユダヤ人たちが彼を取り囲んで、重い罪状をあれこれ言い立てたが、それを立証することはできなかった。

使25:8 パウロは、“私は、ユダヤ人の律法に対しても、神殿に対しても、行程に対しても何も罪を犯したことはありません”と弁明した。

使25:9 しかし、フェストゥスはユダヤ人に気に入られようとして、パウロに言った。“お前は、エルサレムに上って、そこでこれらのことについて、わたしの前で裁判を受けたいと思うか。”

使25:10 パウロは言った。“私は皇帝の法定に出頭しているのですから、ここで裁判を受けるのが当然です。よく

ご存じのとおり、私はユダヤ人に対して何も悪いことをしていません。

使25:11 もし、悪いことをし、何か死罪にあたることをしたのであれば、決して死を免れようとは思いません。しかし、この人たちの訴えが事実無根なら、だれも私を彼らに引き渡すような取り計らいはできません。私は皇帝に上訴します。”

使25:12 そこで、フェストゥスは陪審の人々と教義してから、“皇帝に上訴したのだから、皇帝のもとに出頭するように”と答えた。

使25:13 数日たって、アグリッパ王とベルニケが、フェストゥスに敬意を表するためにカイサリアに来た。

使25:14 彼らが行く日もそこに滞在していたので、フェストゥスはパウロの件を王に持ち出して言った。“ここに、フェリクスが囚人として残っていた男がいます。

使25:15 わたしがエルサレムに行ったときに、祭司長たちやユダヤ人の長老たちがこの男を訴え出て、有罪の判決を下すように要求したのです。

使25:16 私は彼らに答えました。‘被告が告発されたことについて、原告の面前で弁明する機械も与えられず、引き渡されるのはローマ人の観衆ではない’。

使25:17 それで、彼らが連れ立って当地へ来ましたから、わたしはすぐにその翌日、裁判の席に着き、その男を出廷させるように命令しました。

使25:18 告発者たちは立ち上がりましたが、彼らについて、わたしが予想していたような罪状は何一つ指摘できませんでした。

使25:19 パウロという争っている問題は、彼ら自身の宗教に関することと、死んでしまったイエスとかいう者のことです。このイエスが生きていると、パウロは主張しているのです。

使25:20 わたしは、これらのことの調査の方法が分からなかったので、‘エルサレムへ行き、そこでこれらの件に関して裁判を受けたくはないか’と言いました。

使25:21 しかしパウロは、皇帝陛下の判決を受けるときまで、ここにとどめておいてほしいと願い出ましたので、皇帝のもとに護送するまで、彼をとどめておくように命令しました。”

使25:22 そこで、アグリッパがフェストゥスに、“わたしも、その男の言うことを来いてみたいと思います”と言うと、フェストゥスは、“明日、お聞きになれます”と言った。

使25:23 翌日、アグリッパとベルニケが盛装して到着し、千人隊長たちや町のおもだった人々と共に謁見室に入ると、フェストゥスの命令でパウロが引き出された。

使25:24 そこで、フェストゥスは言った。“アグリッパ王、ならびに列席の諸君、この男を御覧なさい。ユダヤ人がこぞともう生かしておくべきではないと叫び、エルサレムでもこの世でもわたしに訴え出ているのは、この男のことで

使25:25 しかし、彼が死罪に相当するようなことは何もしていないということが、わたしには分かりました。所が、この者自身が皇帝陛下に上訴したので、護送することに決定しました。

使25:26 しかし、この者について確実なことは、何も陛下に書き送ることができません。そこで、諸君の前に、特にアグリッパ王、貴下の前に彼を引き出しました。よく取り調べてから、何か書き送るようにしたいのです。

使25:27 囚人を護送するのに、その罪状を示さないのは理に合わないと、わたしには思われるからです。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使26:1 アグリッパはパウロに、“お前は自分のことを話してよい”と言った。そこで、パウロは手を差し伸べて弁明した。

使26:2 “アグリッパ王よ、私がユダヤ人たちに訴えられていることすべてについて、今日、王の前で弁明させていただけるのは幸いであると思います。

使26:3 王は、ユダヤ人の慣習も論争点もみなよくご存じだからです。それで、どうか忍耐をもって、私の申すことを聞いてくださるよう、お願いいたします。

使26:4 さて、私の若いころからの生活が、同胞の間であれ、またエルサレムの中であれ、最初のころからどうであったかは、ユダヤ人ならだれでも知っています。

使26:5 彼らは以前から私を知っているのです。だから、私の宗教の中でいちばん厳格を派である、ファリサイ派の一員として私が生活していたことを、彼らは証言しようと思えば、証言できるのです。

使26:6 今、私がここに立って裁判を受けているのは、神が私たちの先祖にお与えになった約束の時告げに、望をかけているからです。

使26:7 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕え、その約束の実現されることを望んでいます。王よ、私はこの希望を抱いているために、ユダヤ人から訴えられているのです。

使26:8 神が死者を復活させてくださるということ、あなたがたはなぜ信じ難いとお答えになるのでしょうか。

使26:9 実は、私自身も、あのナザレの人イエスの名に大いに反対すべきだと考えていました。

使26:10 そして、それをエルサレムで実行に移し、この私が祭司長たちから権限を受けて多くの聖なる者たちを牢に入れ、彼らが死刑になるときは、賛成の意志表示をしたのです。

使26:11 また、至るところの会堂で、しばしば彼らを罰してイエスを冒瀆するように強制し、彼らに対して激しく怒り狂い、外国の町にまでも迫害の手を伸ばしたのです。”

使26:12 “こうして、私は祭司長たちから権限を委任されて、ダマスコへ向かったのですが、

使26:13 その途中、真昼のことです。王よ、私は天からの光を見たのです。それは太陽より明るく輝いて、私とまた動向していた者との周りを照らしました。

使26:14 私たちが皆地に倒れたとき、`サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか。とげの付いた棒をけると、ひどい目に逢うと、私にヘブライ語で語りかける声を聞きました。

使26:15 私が、`主よ、あなたはどなたですか’と申しますと、主は言われました。`わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

使26:16 起き上がれ。自分の足で立て、わたしがあなたに現れたのは、あなたがわたしを見たことを、そして、これからわたしが示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人にするためである。

使26:17 わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのもとに遣わす。

使26:18 それは、彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち帰らせ、こうして彼らがわたしへの信仰によって、罪の赦しを得、聖なる者とされた人々と共に恵の分け前にあずかるようになるためである”。

使26:19 “アグリッパ王よ、こういう次第で、私は天から示されたことに背かず、

使26:20 ダマスコにいる人々を初めとして、エルサレムの人々とユダヤ全土の人々、そして異邦人に対して、悔い改めて神に立ち帰り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと伝えました。

使26:21 そのためにユダヤ人たちは、神殿の境内にいた私を捕えて殺そうとしたのです。

使26:22 ところで、私は神からの助けを今日までいただいて、固く立ち、小さな者にも大きな者にも証しをしてきましたが、預言者たちやモーセが必ず起こると語ったこと以外には、何一つ述べていません。

使26:23 つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです。”

使26:24 パウロがこう弁明していると、フェストゥスは大声で言った。“パウロ、お前は頭がおかしい。学問のしすぎで、おかしくなったのだ。”

使26:25 パウロは言った。“フェストゥス閣下、わたしは頭がおかしいわけではありません。事実で理にかなったことを話しているのです。

使26:26 王はこれらのことについてよくご存じですので、はっきりと申し上げます。このことは、どこかの片隅で起こったものではありません。ですから、一つとしてご存じないものはないと、確信しております。

使26:27 アグリッパ王よ、預言者たちを信じておられますか。信じておられることと思います。”

使26:28 アグリッパはパウロに言った。“短い時間でわたしを説き伏せて、キリスト信者にしてしまうつもりか。”

使26:29 パウロは言った。“短い時間であろうと、王ばかりではなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようになったださることを神に祈ります。このように鎖につながれることは別ですが。”

使26:30 そこで、王が立ち上がり、総督もベルニケや陪席の者も立ち上がった。

使26:31 彼らは退場してから、“あの男は、死刑や投獄に当たるようなことは何もしていない”と話し合った。

使26:32 アグリッパ王はフェストゥスに、“あの男は皇帝に上訴さえしていなければ、釈放してもらえただろうに”と言った。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使27:1 わたしたちがイタリアへ向かって船出することに決まったとき、パウロと他の数名の囚人は、皇帝直属部隊の百人隊長ユリウスという者に引き渡された。

使27:2 わたしたちは、アジア州沿岸の各地に寄港することになっている、アドラミティオン港の船に乗って出港した。テサロニケ出身のマケドニア人アリスタルコも一緒であった。

使27:3 翌日シドンに着いたが、ユリウスはパウロを親切に扱い、友人たちのところへ言ってもてなしを受けることを許してくれた。

使27:4 そこから船出したが、向かい風のためキプロス島の陰を航行し、

使27:5 キリキア州とパンフィリア州の起きを過ぎて、リキア州のミラに着いた。

使27:6 ここで百人隊長は、イタリアに行くアレクサンドリアの船を見つけて、わたしたちをそれに乗り込ませた。

使27:7 幾日もの間、船足ははかどらず、ようやくクニドス港に近づいた。ところが、風に行く手を阻まれたので、サルモネ岬を回ってクレタ島の陰を航行し、

使27:8 ようやく島の岸に沿って進み、ラサヤの町に近い“良い港”と呼ばれる所に着いた。

使27:9 かなりの時がたって、既に断食日を過ぎていたので、航海は危険であった。それで、パウロは人々に忠告した。

使27:10 “皆さん、わたしの見るところでは、この航海は積み荷や船体ばかりでなく、わたしたち自身にも危険と多大の損失をもたらすこととなります。”

使27:11 しかし、百人隊長は、パウロの言ったことよりも、船長や船主の方を信用した。

使27:12 この港は冬を越すのに敵していなかった。それで、大多数の者の意見により、ここから船出し、できるならばクレタ島で南西と北西に面しているフェニクス港に行き、そこで冬を過ごすことになった。

使27:13 ときに、南風が静かに吹いて来たので、人々は望みどおりに事が運ぶと考えて錨を上げ、クレタ島の岸に沿って進んだ。

使27:14 しかし、間もなく“エウラキロン”と呼ばれる暴風が、島の方から吹き降ろして来た。

使27:15 船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができなかつたので、わたしたちは流されるにまかせた。

使27:16 やがて、カウダという小島の陰に来たので、やっとのことで小舟をしっかりと引き寄せることができた。

使27:17 小舟を船に引き上げてから、船体には綱を巻きつけ、シルティスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて海錨を降ろし、流されるにまかせた。

使27:18 しかし、ひどい暴風に悩まされたので、翌日には人々は積み荷を海に捨て始め、

使27:19 三日目には自分たちの手で船具を投げ捨ててしまった。

使27:20 幾日もの間、太陽も星も見えず、暴風が激しく吹きすさぶので、ついに助かる望みは全く消えうせようとしていた。

使27:21 人々は長い間、食事をとっていなかった。そのとき、パウロは彼らの中に立って言った。“皆さん、わたしの言ったとおりに、クレタ島から船出していなければ、こんな危険や損失を裂けられたにちがいません。”

使27:22 しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです。

使27:23 わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、

使27:24 こう言われました。“パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ。”

使27:25 ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。

使27:26 わたしたちは、必ずどこからの島に打ち上げられるはずですよ。”

使27:27 十四日目の夜になったとき、わたしたちはアドリア海を漂流していた。真夜中ごろ船員たちは、どこから陸地に近づいているように感じた。

使27:28 そこで、水の深さを測ってみると、二十オルギアあることが分かった。もう少し進んでまた測ってみると、十五オルギアであった。

使27:29 船が暗礁に乗り上げるのを恐れて、船員たちは船尾から錨を四つ投げ込み、夜の明けるのを待ちわびた。

使27:30 ところが、船員たちは船から逃げ出そうとし、船首から錨を降ろす振りをして小舟を海に降ろしたので、

使27:31 パウロは百人隊長と兵士たちに、“あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助からない。”と言った。

使27:32 そこで、兵士たちは綱を断ち切って、小舟を流れるにまかせた。

使27:33 夜が明けかけたころ、パウロは一同に食事をするように勧めた。“今日で十四日もの間、皆さんは不安のうちになんか何も食わずに、過ごしてきました。”

使27:34 だから、どうぞ何か食べてください。生き延びるために必要だからです。あなたがたの頭から髪の毛一本もなくなることはありません。”

使27:35 こう言ってパウロは、一同の前でパンを取って神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始め

た。

使27:36 そこで、一同も元気づいて食事をした。

使27:37 船にいたわたしたちは、全部で二百七十六人であった。

使27:38 十分に食べてから、穀物を海に投げ捨てて船を軽くした。

使27:39 朝になって、どこの陸地であるか分からなかったが、砂浜のある入り江を見つけたので、できることなら、そこへ船を乗り入れようということになった。

使27:40 そこで、錨を切り離して海に捨て、同時に舵の綱を解き、風に船首の帆を挙げて、砂浜に向かって進んだ。

使27:41 ところが、深みに挟まれた浅瀬にぶつかって船を乗り上げてしまい、船首がめり込んで動かなくなり、船尾は激しい波で壊れだした。

使27:42 兵士たちは、囚人たちが泳いで逃げないように、殺そうと計ったが、

使27:43 百人隊長はパウロを助けたいと思ったので、この計画を思いとどまらせた。そして、泳げる者がまず飛び込んで陸に上がり、

使27:44 残りの者は板切れや船の乗組員につかまって泳いで行くように命令した。このようにして、全員が無事に上陸した。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使28:1 わたしたちが助かったとき、この島がマルタと呼ばれていることが分かった。

使28:2 島の住民は大変親切にしてくれた。降る雨と寒さをしのぐためにたき火をたいて、わたしたち一同をもてなしてくれたのである。

使28:3 パウロが人束の枯れ枝を集めて火にくべると、一匹の蝮が熱気のために出て来て、その手に絡みついた。

使28:4 住民は彼の手にぶら下がっているこの生き物を見て、互いに言った。“この人はきっと人殺しにちがいない。海では助かったが、‘正義の女神’はこの人を生かしておかないのだ。”

使28:5 ところが、パウロはその生き物を火の中に降り落とし、何の害も受けなかった。

使28:6 体がはれ上がるか、あるいは急に倒れて死ぬだろうと、彼らはパウロの様子をうかがっていた。しかし、いつまでもたっても何も起らないのを見て、考えを変え、“この人は神様だ”と言った。

使28:7 さて、この場所の近くに、島の長官でプブリウスという人の所有地があった。彼はわたしたちを歓迎して、三日間、手厚くもてなしてくれた。

使28:8 ときに、プブリウスの父親が熱病と下痢で床にいたので、パウロはその家に行って祈り、手を置いていやした。

使28:9 このことがあったので、島のほかの病人たちもやって来て、いやしてもらった。

使28:10 それで、彼らはわたしたちに不覚敬意を表し、船でのときには、わたしたちに必要な物を持って来てくれた。

使28:11 三か月後、わたしたちは、この島で冬を越していたアレクサンドリアの船に乗って出航した。ディオスコロイを船印とする船であった。

使28:12 わたしたちは、シラクサに寄港して三日間そこに滞在し、

使28:13 ここから海岸沿いに進み、レギオンに着いた。一日たつと、南風が吹いて北ので、二日でプテオリに入港した。

使28:14 わたしたちがそこで兄弟たちを見つけ、請われるままに七日間滞在した。こうして、わついたちはローマ着いた。

使28:15 ローマからは、兄弟たちがわたしたちのことを聞き伝えて、アピイフォルムとトレス・タベルネまで迎えに来てくれた。パウロは彼らを見て、神に感謝し、勇気づけられた。

使28:16 わたしたちがローマに入ったとき、パウロは番兵を一人つけられたが、自分だけで住むことを許された。

使28:17 三日の後、パウロはおもだったユダヤ人たちを招いた。彼らが集まって来たとき、こう言った。“兄弟たち、わたしは、民に対しても先祖の慣習に対しても、叛くようなことは何一つしていないのに、エルサレムで囚人としてローマ人の手に引き渡されてしまいました。

使28:18 ローマ人はわたしを取り調べたのですが、死刑に相当する理由が何も無かったので、釈放しようと思った

のです。

使28:19 しかし、ユダヤ人たちが反対したので、わたしは皇帝に上訴せざるをえませんでした。これは、決して同胞を告発するためではありません。

使28:20 だからこそ、お会いして話し合いたいと、あなたがたにお願いしたのです。イスラエルが希望していることのために、わたしはこのように鎖でつながれているのです。”

使28:21 すると、ユダヤ人たちが言った。“私どもは、あなたのことについてユダヤから何の書面を受け取ってはおりませんし、また、ここに来た兄弟のだれ一人として、あなたについて何か悪いことを報告したことも、話したこともありませんでした。

使28:22 あなたの考えておられることを、直接お聞きしたい。この分派については、至るところで反対があることを耳にしているのです。”

使28:23 そこで、ユダヤ人たちは日を決めて、大勢でパウロの宿舎にやって来た。パウロは、朝から晩まで説明を続けた。神の国について力強く証しし、モーセの律法や預言者の書を引用して、イエスについて説得しようとしたのである。

使28:24 ある物はパウロの言うことを受け入れたが、他の物は信じようとはしなかった。

使28:25 彼らが互いに意見が一致しないまま、立ち去ろうとしたとき、パウロはひと言次のように言った。“聖書は、預言者イザヤを通して、実に正しくあなたがたの先祖に、

使28:26 語られました。‘この民のところへ行行って言え。あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。

使28:27 この民の心は鈍り、耳は遠くなり、目は閉じてしまった。こうして、彼らは目で見ることなく、耳で聞くことなく、心で理解せず、立ち帰らない。わたしは彼らをいやさない。’

使28:28 だから、このことを知っていただきたい。この神の救は異邦人に向けられました。彼らこそ、これに聞き従うのです。”

使28:30 パウロは、自費で借りた家に丸二年間住んで、訪問する物はだれかれとなく歓迎し、

使28:31 全く自由に何の妨げもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続けた。

使***:

使***:

使***:

使***:

使***:

使8:37 フィリポが、“真心から信じておられるなら、差し支えありません”と言うと、宦官は、“イエス・キリストは神の子であると信じます”と答えた。

使15:34 しかし、シラスはそこにとどまることにした。

使24:6-8 そして、私どもの律法によって裁こうとしたところ、千人隊長リシアがやって来て、この男を無理やり私どもの手から引き離し、告発人たちには、閣下のところに来るようにと命じました。

使28:29 パウロがこのようなことを語ったところ、ユダヤ人たちは大いに論じ合いながら帰って行った。